

事業報告書及びその付属明細書

2018年度

自 2018年4月1日 至 2019年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（JAFS）のめざすもの

I. 基本理念 (Vision)

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

II. 基本課題 (Mission)

1. アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
(特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する)
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成推進

III. 基本目標 (Goal)

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

IV. 基本活動 (Program offered)

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

2018年度 事業報告

2018 年度も引き続き「開発から取り残された人たち」(以下、取り残された人たち)に焦点をあて、開発支援事業を行い、本会の国際ネットワーク(AFS)を通して、課題共有を実施。それぞれの国や地域において課題解決に向けたアクションプランづくりと実践が進められた。包括的ではあるが、2018 年度も「持続可能な開発目標」(*SDGs)に本会が貢献することができた。

開発支援事業に関しては、「取り残された人たち」が農村コミュニティから包摂される機会づくりを水、教育、貧困対策、環境の4支援事業(詳細は下記)を通して行った。農村の人たちが、自分たちより脆弱な社会環境にいる人たちに目を向け、助ける視点を養うことができた。

国際交流事業に関しては、地域開発、雇用促進、環境、教育、人材育成をテーマに取り残された人たをいかに包摂していくかについて、セミナーを通してアクションプラン策定を行った。アクションプランにおいては、気候変動や紛争により自然・社会環境がより悪化していく中で、「取り残されている人たち」を見つけ、助けていくことの課題が明らかになった。

災害等罹災者に対する生活支援事業に関しては、予定していた熊本県益城町への仮設住宅支援を通して住民の生活向上に関しては、継続して実施してきた仮設団地管理を別機関に引き継ぎ、本事業を終了させた。ネパール地震の被災地復興支援事業に関しては、上記の開発支援事業を通して実施すると同時に大規模揚水システム設置及び農業基盤づくりを年度末より始動した。マレーシア、ペナン州にて生活を送っているミャンマー・ロヒンギャ難民の支援地に対して、物資配布を行った。インドネシアにおいて、ロンボク地震が起こったが、初期初動の調査と物資配布に留まり、本格的な支援へと踏み込めなかった。

普及啓発事業においては、日本国内における様々なイベントやプログラムを通して、本会の広報と支援事業に関する普及啓発が実施出来た。新宮市の委託と協力を得て長年継続している環境プログラム「土と水と緑の学校」も無事35年目を迎え、幼い頃から自然や環境にふれることを通して、持続可能な社会づくりができる人材を育成することができた。その他、内外の関連機関との連携も深まり、NGO/NPO 活動の社会への広がりにも貢献することができた。

運営管理に関しては、内閣府の2度目の立入検査が実施された。若干の指摘はあったが、これまでの活動の透明化を目指し、ガバナンス・コンプライアンスルールを決定・維持してきたことが認められ、検査が無事終了した。

I. 公益目的事業1 開発支援事業

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給をめざした井戸建設支援事業

1. 井戸・飲料水供給

2018 年度は、アジア 6 ヶ国(インド、カンボジア、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)の農村 51 ヶ所に 84 基の井戸およびパイプラインを完成することができ、水くみのアクセスに長時間の労働を強いられていた人々の生活環境の緩和をすることができた。加えて、近年の気候変動による降雨量の減少による水不足や災害(地震)の影響による水源枯渇の課題に対する「水の確保」についても貢献することができた。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)

教育里親制度(教育資金の提供)を通じて、引き続き、上記 5 ヶ国の就学生(472)名に教育支援を行った。各里子の教育支援と併せて、就学校のインフラの改善を行った。

2. 教育設備・環境

- インド: インド、カルナータカ州ビジャヤプーラ県及びマハラシュトラ州ガッチロリ県の日印友好学校の運営および、設備や遊具などの支援を行った。
- ネパール: 学校校舎 5 棟の建設を実施し、主に地震後の教育環境改善を実施した。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

- インド: タミルナドゥ州のディンディガル、ナマカル 2 県の HIV/AIDS の子どもおよび、家族 5 世帯の支援を行った。

4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

(1) 栄養改善(ネパール)

タイ平野の低所得地域の小学校の約 200 名の生徒に、給食支援と栄養指導を実施。子どもたちの栄養状況の改善が出来た。また、昔ながらの生活習慣で暮らしている山間村の栄養改善を実施するために調整準備を行った。

(2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援(インド、フィリピン)

インド:マハラシュトラ州ナグプール県のスラムの子どもたちを対象に、教材の配布、家族のための毛布の配布と共に教育指導などを実施した。子どもたちがより安全な環境の中で教育が受けられるような施設の建設を開始した。

フィリピン:マニラ市内の鉄道沿い地区で廃材を集めて作られた家にて生活をしている子どもたちの教育支援を継続して行なった。建設延長をしていたリザール州のデイケアセンター建設が完成した。

C.『貧困対策事業』 - 自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導-

1. マイクロクレジット支援・能力開発

- インド: アムラワティ県の女性のグループの養鶏事業は、養鶏指導、貯蓄指導を行った。マハラシュトラ州ガッチロリ県のナブキン工場設置支援に関しては、現地との話し合いにより工場設置は取りやめ、現地 NGO が支給するナブキン普及と指導に変更し、実施した。
- スリランカ: 農村開発のために農村ファシリテーターの支援を実施した。
- ネパール:タイ平野で行ってきた養蜂支援による蜂蜜採取が順調になってきたため、現地に移行することとした。しかし、気候不全のため農家の収穫量が下がり課題は残る。また、農家の自立促進を実施すると同時に、シンドゥパルチョーク郡の地震被災地の農業振興のために農業グループの組織化を行った。
- フィリピン: ソルソゴン州の 4 地区にマングローブ植樹 5 年目の最終年、合計 10 万本を完了させることが出来、漁場の復活による生計の安定支援につなげることができた。

2. 職業訓練

- インド:外務省の「平成 29 年度 NGO 連携無償資金協力支援事業」から資金供与を受けて、バンガロール県のバガルール村に職業訓練学校(校舎、学生寮、教職員室、事務室、多目的ホール、研究室、トイレ、バスルーム)を建設した。生徒定員数 120 名/年を受け入れることが可能な学校とカリキュラムを決定。インドの職業訓練・実業家育成省の認可を受け、学校を設立及び開校することが出来た。

3. 保健衛生指導・医療

(1) 医療支援

- インド:マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営の運営支援を実施。毎週 2 回の医者による診察、常勤の看護師、事務員の支援と患者への薬、喘息用の吸引器の支援を行った。ムスカ村および周辺 12 村、のべ約 3,700 人が診察を受けることができた。
- 中国:農村地域の医療支援は現地事情により実施を見送ることとした。
- ネパール:バグマティ県農村地域の女性の健康維持のために 2 校 120 名に生理用ナブキンの配布、看護師による講習会を行い、女性たちが抱える問題に向き合った。加えて、母子保健改善のためのセミナーを実施し、日本から助産師を講師派遣した。

4. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド(RUDYA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)の運営支援と活動強化を行った。

D.『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

- インドネシア: 北スラベシ州タリセ島にてマンゴーやジャックフルーツなどの果樹 1,000 本支援し、島の環境を守る事業と共に、将来的に島民の利益につながる活動を行った。

- インドネシア：2018年度公益信託地球環境基金から助成を受け、2003年12月に発生したインド洋大地震大津波の風化を防ぐために、地元の大学生からの協力をえて、2019年2月に防潮林マングローブの植林600本と環境教育を地元の小・中学校にて実施した。
- ネパール：地域の森を守る事業として、コミュニティーフォレストの植林を2カ村に1,000本を植樹した。

2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

1986年に発足した本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、現地提携団体を中心に様々な地球環境保全に関する啓発活動が行われている。

- インド：マハラシュトラ州にて継続的に実施されているグリーンスカウト運動の啓発に必要な支援を実施
- ネパール：各地で活動するグリーンスカウト運動と小学生の環境セミナーを2回実施し、様々な地域3校の児童と教師に対して環境への意識向上を目指した。それにより校内活動や地域活動への推進につながった。
- フィリピン：アンティケ州パンダン町の水源「マロンパティ」にて水源の森保全のための植林を実施した。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールでは森林破壊の歯止めと薪の代替燃料確保のため牛糞発酵によるバイオガスの普及を実施、シンドゥパルチョーク郡に新たに24世帯に24基のバイオガスプラントを設置した。薪の年間使用量を1世帯当たり約2,800Kg削減でき、年間5トンの二酸化炭素排出を抑えることにつながった。(りそなアジア・オセアニア財団助成事業)

E. サイクル・エイド事業

大阪府内の放置自転車有効利用の一環として、再生自転車を必要とするアジアの開発途上地域に寄贈する事業。本年度は、タイのスパンブリー県を中心に350台、カンボジアのプレイベン州に373台の自転車が寄贈された。主に子どもたちの通学や女性、貧農の生活改善のために有効活用され、新たな仕事への取組みの機会となり、受益者たちが自立への一歩を踏み出した。(競輪の補助事業)

F. ワークキャンプ、プロジェクト視察

上記の各事業に関連して、ワークキャンプは4カ国(インドネシア、カンボジア、ネパール、フィリピン)にて14回実施し、のべ248名が参加。プロジェクト視察は、17回行った。尚、インド、バンガロール県にて建設された職業訓練学校の建設視察は、平成29年度NGO連携無償資金協力支援事業からの資金供与、2019年3月20日からのネパール、シンドゥパルチョーク郡における農業生産性向上事業の一環である視察は、平成30年度NGO連携無償資金協力支援事業からの資金供与により実施することができた。

II. 公益目的事業2 国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワークを担う各国各部会の職員の研修、育成のために、奨学金支援を行っている。フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに2018年度は、インドから1名を派遣した。

2. 海外ボランティア研修制度

2018年度は、大阪工業大学の溝口竜太郎が参加した。2018年8月6日～9月25日までネパールにて様々な農村開発事業の研修を受けた。

B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

第28回アジア国際ネットワークセミナーをマレーシアのペナン州にて、実施した。アジア11カ国から81

名が参加した。テーマは「世界的な気候変動が貧困問題に与える影響と対策」。基調講演やインド、インドネシア、ネパールなどテーマに対して実践している内容についてケーススタディを実施。参加各国に分かれて分科会と宣言文の作成を行った。これらのプログラムの他、ペナン州におけるミャンマー・ロヒンギャ難民の支援地を訪れ、支援物資の提供を行った。

(2) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2018年度は、上記のアジア国際ネットワークセミナーにて共通基金の拡大に向けた政策や課題の共有、会計報告を行った。

(3) アジア・ユースサミット

第5.5回アジア・ユースサミットをインド、カルナータカ州ビジャヤプーラ県にて実施した。インド、ネパール、スリランカ、日本から約21名が集まり、実施した。テーマを「多様な社会と地球温暖化に対する若者のグランドデザインづくり」として、各国の地域社会における地球温暖化と多様性の課題に対してプレゼンテーションをつくり、その内容にあわせて共通に取り組めるグランドデザインを作った。その他、文化交流会の一環として、日印友好学園コスモニケタン、マニハルスレバン女学院から、演芸と舞踊が披露された。グランドデザインに関しては、参加各国のプレゼンテーションから課題が定められ、期間、実施条件などを定め、実践に近い具体的な方法が示された。

2. 国際体験交流(スタディツアー等)

2018年度は、インド、フィリピンの2カ国にてスタディツアーを実施し、46名が参加した。

III. 公益目的事業3 災害罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) ネパール中部地震 災害復興支援

2015年4月25日に発生したネパール中部地震の復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指した支援活動を生活支援、学校支援、飲料水支援を実施。また根本的な水の不足を解決するために、外務省の「平成30年度 NGO 連携無償金支援事業」から資金供与を受け、揚水システム設置と農業基盤づくりを行う大規模な復興支援事業を開始した。

(2) 熊本地震

昨年度から実施してきた益城町の仮設団地への支援は、他機関へと仮設団地の管理を移行し、引き上げた。

(3) ミャンマー・ロヒンギャ難民支援

現在、マレーシア・ペナン州にて難民生活を送っているロヒンギャ族に対して、生活物資などの支援を行った。

(4) インドネシア・ロンボク島地震支援

現地提携団体 HOSANNA による、被災地調査時における若干の生活物資配布を実施。本格的支援に関するインドネシア政府が提示した支援条件が現地提携団体のキャパシティを越えていたために、本格的な支援は断念した。

IV. 公益目的事業4 普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFS チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民に加わってもらえるようチャリティ企画を行った。2018年度も恒例の住道駅前の JAFS チャリティバザールを年2回実施。また「アジアンチャリティフェスティバル」も3年目を迎え、多文化共生の観点から在関西の外国人との交流を兼ねたチャリティイベントとして416名の参加者があった。その他、それぞれ各地域や各ファミリーグループの支援趣旨のもと、チャリティイベン

トやコンサーを実施した。

(2) 国際理解教育講座

国際理解教育講座として、学校及び団体へ講義を行った。2018 年度も引き続き、小学校、高校、大学、企業への講義を実施。幅広い社会層の人たちへ講義を行うことができた。(講師派遣のべ 9 ヶ所、参加生徒・団員数 455 名)その他、学校からの委託により授業を受け入れ、国際理解に対する講義を実施した(3 校 25 名)。

(3) 国際啓発活動

2018 年 6 月 9 日の社員総会にあわせて、開発支援事業報告の実施。毎月の JAFS ぞうすいの会や地区活動などにて、適宜プロジェクト報告を行い、プロジェクトの理解のみならず社会の現状などの啓発を行っている。

(4) アジア文化理解講座

2018 年度も引き続き、アジア家庭料理教室を中心に、料理を通じたアジアの文化理解に努めた。毎月アジアの様々な国の「家庭」料理を取り上げ、アジア 4 地域 4 回の教室を行い、延べ 68 名の参加があった。

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大阪大学、京都大学、京都女子大学、同志社大学からの個人応募によるインターンシップ、計 5 名が本会の活動を通じて国際協力団体の活動内容と市民運動体の運営に関して学ぶ機会となった。事務局内の活動及び国内の様々なプログラムに参加し、海外プロジェクト啓発活動では実習を通して国際協力について学び事後活動につながる研修を行った。

(6) 法人関連プログラム

本会会員、法人賛助会員へのアジアへの理解を深めるためにグローバル人材育成セミナーを 3 回開催し、のべ 101 名が参加。マレーシア、インドネシア、日本の経済に関するセミナーを実施した。

(7) JAFS 社員クラブ

「人生の話しから霊」に至るまでバラエティな話しができるゲストを招き、卓話を実施。講師の卓話を中心に参加者相互の交流・親睦の場を作った、2018 年度は合計 4 回開催した。

(8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立 40 周年記念行事の一環として、政治経済はもとより自然・社会・文化などについて多角的に、一味違うアジアを探求する場として、2019 年 1 月に開学。専門的視点からアジア個々の国の文化理解に向けた話しが行われた。1 月から開校し、合計 4 回の講義が行われた。

(9) 関連プログラム／その他団体協力

関係団体と連携の中、理事、評議員、運営委員、講師として協力。関西の NGO 活動の推進のため、関西 NGO 協議会の理事として、関西国際交流団体協議会は監事として関わっている。加えて関西最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」は実行委員会メンバーとして協力。その他、ネットワーク NGO の JANIC による全国最大規模の国際協力に関連するイベント「グローバルフェスタ」に本会の関東地区が参加。ジャパン・プラットフォームからは助成だけでなく、益城町支援における連携を行い、充実した活動が展開できた。その他多くの関係団体との繋がりの中で本会の活動の更なる推進と関西の NGO としての役割を担った。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちによって支援されていくためには、様々な地域活動が必要。地区世話人、協力スタッフを中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカーソン、グリーンスカウト(環境活動)等を中心に各啓発活動が行われた。

3. 広報

(1) 機関誌

本会活動情報誌「アジアネット」を年 4 回(各 4,500~5,500 部)発行し、事業報告と海外情報などを提

供した。新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペース向けにも送付した。

また日本在住の外国人向け、およびアジアを始め海外の人向けに、アジアネット各号について、ヘッドラインと写真を中心に英訳した英語版を作成し、ホームページおよびフェイスブックにて発信した。

(2) インターネット・フェイスブック

ホームページで本会のイベント情報やニュースなどを随時更新した。フェイスブックでも適宜必要なイベント情報の掲載、広報、報告を行った。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど17グループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を精力的に展開していった。

5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の下、活動が活発に行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催

「土と水と緑の学校」は35回を迎えた。新宮市から協力を受けて、総勢159名参加し、「土の日」「水の日」「みどりの日」「いのちの日」にわかれ、環境保全プログラムを展開した。新宮市からの参加もより多く見られ、地域密着型のプログラムとして今後の発展に期待ができる形となった。

(2) 美山「土と水と緑の自然学校」開催

美山「土と水と緑の自然学校」京都府南丹市美山町にて開催した。「農村と都市の交流」を基本とし、自然体験および農村に暮らす人々との交流を通して自然と人、人とコミュニティの繋がりを体感し、学ぶ実践型のプログラムを実施した。ボランティアを含め合計36名が参加した。

(3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。国内では大阪、吹田、寝屋川・枚方の3地域に部会を持つ。大阪は新宮や京都の美山町で環境プログラムの開催を行い、吹田は、毎月1回例会、川清掃活動、無人島キャンプを実施。寝屋川・枚方は、地域活動グループと共に緑化農業活動に参加した。

V. 運営管理

本年度も、理事会(4回)を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会もそれぞれ適宜実施された。また本年度は、内閣府の二度目の立入検査が実施された。若干の指摘はあったが、これまでのガバナンス、コンプライアンスルール強化の結果、無事検査を終了することができた。

以上を以て2018度の活動事業報告の概要としたい。

I. 開発支援事業

I-A. 水事業

1. 井戸・飲料水供給

(2019年3月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国名	2018年度完成	累積
インド	9	486
インドネシア	-	45
カンボジア	25	435
スリランカ	6	113
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	30	260
バングラデシュ	5	157
パキスタン	-	8
フィリピン	9	396
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	-	22
ラオス	-	21
合計	84	2,033

●インド

BSVIA カルナータカ州ビジャヤプーラ県 1基

モーター式井戸	1基
ビジャヤプーラ地区ブルナプール村	

RUDYA マハラシュトラ州ガッチロリ県 4基

ポンプ式井戸	4基
ダンノーラ地区サケラ村	
ダンノーラ地区ダワディ村	
ジャムガオン地区レクタラ村	
アルモリ地区ワラチュラ村	

HDSI マハラシュトラ州アムラワティ県 4基

ポンプ式井戸	4基
タヴァサ地区ヴァルガバン村	
アチャルプール地区マルハラ村	
アチャルプール地区サヴァリ村	
チャンドゥルバザール地区カルホディ村	

●カンボジア

KAFS タケオ州 25基

露天式井戸	25基
トレアン郡クバブ地区サモールクロム村(4)	
トレアン郡クバブ地区サモールルー村	

トレアン郡クバブ地区タスレン村(2)
 トレアン郡ロネアム地区トメイ村(2)
 トレアン郡プレイスルック地区ネアル村(2)
 トレアン郡プレイスルック地区ソーチャン村
 トレアン郡プレイスルック地区プレイスルック村
 トレアン郡ロネアム地区タマダ村(3)
 トレアン郡ロネアム地区ソピー村(3)
 トレアン郡ロネアム地区トラパン・トム村(2)
 トレアン郡ロネアム地区トラパンチュレイ村(2)
 ドーンケオ郡ロカクラウ地区ソーチャン村(2)

●スリランカ

SARVODAYA 南部州 2基

露天式井戸	2基
ハンバントタ県ベリアアッタ地区シティナマルワ南部村	
ハンバントタ県カツワナ地区ワツカンダ村	

SARVODAYA 東部州 4基

露天式井戸	4基
アンパーラ県クンブルウエラ村	
アンパーラ県タラピティオヤ村	
アンパーラ県パディヤタラワ村	
アンパーラ県モラガハバラマ村	

●ネパール

AFS-ネパール ネパール全域 30基

簡易水道貯水式井戸	6基
-----------	----

バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.10 マハデブタール村 (1)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.10 ダラケット モディンダダ村 (1)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.2 クンチョーク (1)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡メラムチ N.P. Word No.9 ジャナリ地区タパ村(1)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡メラムチ N.P. Word No.9 ジャナリ地区カルキ村(2)

簡易水道付パイプライン式井戸	24基
----------------	-----

バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.10 マハデブタール村 (3)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.10 ダラケット モディンダダ村 (4)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. Word No.2 クンチョーク (9)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡メラムチ N.P. Word No.9 ジャナリ地区タパ村(5)
 バグマティ県シンドゥパルチョーク郡メラムチ N.P. Word No.9 ジャナリ地区カルキ村(3)

●フィリピン

KALIPI エエバエシハ州	7基
ポンプ式井戸	7基

カビアオ町バゴンシカット村No.3 ブロック
 カビアオ町サンフェルナンドスール村シティオサカラング
 サンイシドロ町プロ村 No.2 ブロック
 サンタローサ町リウェイウェイ村No. 5 ブロック
 サンタローサ町リウェイウェイ村No. 3 ブロック
 サンタローサ町ソリダット村
 サンタローサ町トラモ村

AFS-UMD ソルソゴン州	2基
簡易パイプライン式井戸	2基

マトノグ町マンバハ村 マンバハ小学校
 マトノグ町ナブラカン村ビセンテドロタン小学校

●バングラデシュ

BDP ジャマルプール県	3基
ポンプ式井戸	3基

バスチャラ地区ザミール村
 スリープール地区ビシュノプール村
 スリープール地ハヤトプール村

BDP ポリシャル県	2基
ポンプ式井戸	2基

ゴイラ地区カティラ村
 バグダ地区アスコール村

建設中の井戸	23基
--------	-----

インド	2基
カンボジア	0基
スリランカ	7基
ネパール	3基
バングラデシュ	4基
フィリピン	4基
ミャンマー	1基
ラオス	2基



スリランカに建設された井戸



ネパールにて完成した井戸



カンボジアにて完成した井戸



フィリピン、ソルソゴンの小学校に設置した水道にて手を洗う子どもたち

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

人間形成に不可欠であり、子どもたちの健全な育成に必要な学校教育。そして、子どもたちは教育を受ける権利があり、大人はそのための環境を整えなければならない。しかし、アジア地域では経済的理由やその他、通学困難な状況下に置かれ、学校に通えない子どもたちが多くいる状況が現在もある。本会では、そのような状況下の子どもたちの一人でも多くが就学により基礎教育を受ける機会を得ることが出来るよう、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子どもたちを里子、日本側支援者は教育里親としてサポートするプロジェクトを実施している。加えて中途退学学生を減少させ、農村部の子どもたちの教育向上をめざす。

近年、以前と比べて学校に通うことの有益性を親たちも理解し、農村部においても就学率が向上しつつある一方、未だ南アジアにおいては女子教育に対する理解や高等教育への必要性の理解が不足している。また経済成長している国においては、途中退学をし、就学よりも働いて賃金を得、家族を支えることが優先される現状や、親が職を求めて移住による途中退学するケースはまだ根強く残っており、今後も提携団体及び学校を通じて、両親への教育理解の普及が必要である。

加えて学校には、教材不足、低質な教育、教員不足、両親の無理解など様々な問題・課題が山積みで、その改善には地域(コミュニティ)を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要がある。本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。支援と同時に里親と里子が手紙を通じての相互交流を行った。2018年度は472人の里子を支援。里親の存在が里子たちの心の支えにもなり、学習への意欲向上など良好な方向に導くことにも繋がっている。

アジア里親の会 里親決定状況 (2019年3月現在)

国名	2018年度里子数	里子累計数
インド	172	444
カンボジア	80	215
ネパール	152	258
バングラデシュ	38	224
フィリピン	30	33
合計	472	1,174

●インド

BSVIA 教育支援事業 80名

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。一方で学校運営自立のために、授業料の確保、他校からの転入生、成績が悪化した生徒のための有償のサマーコースなどを実施した。

SSH 教育支援事業 7名

【タミルナードゥ州ナマカル県 7名】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身が HIV に感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。加えて子供たちカウンセリングプログラムを実施しケアを行っている。(累計70名)

RUDYA 教育支援事業 45名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちへの教育支援。遠方からの就学者に対しては寮にて生活できる体制を作り、通学困難により離学することを防ぎ、就学率の向上を目指している。2016年に政府助成校として認定されたが、未だに助成金は僅かしか届かず、上記の子どもたちへの継続支援と学校運営支援を行った。

AFS-Nagpur チャイルドアカデミー 40名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指した支援。加えて就学に必要な文具配布や読み書き教室を実施して、子ども達の学習意欲とモチベーション向上を目指した活動をおこなった。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 80名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal 教育支援事業 25名

【ノールパラシ郡カワソティ市ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援を実施した。

ヤンヤンビ学園 6名

【カトマンズ郡シタパイラ地域】

ヤンヤンビ学園近郊のシタパイラ地域とその周辺に住む、就学困難な子どもたちに就学の機会を与え、継続就学と高校教育修了を目指した支援を実施した。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 65名

【カトマンズ郡ブタニルカクタ市チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない貧農民や移住労働者の子どもたちが安心して就学できるように、学費支援と学校運営支援を実施した。

AFS-Nepal ボテシバ村 教育支援事業

チャンデスウォリ H.セカンダリースクール 24名

AFS-Nepal サラソワティ L.セカンダリースクール 25名

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.Word No.10 ボテシパ】

2015 年の中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯や親を亡くした子どもたちの就学支援を引きつづ実施。高等学校卒業まで就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

AFS-Nepal バクタプール教育支援事業
クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール 7名

【バクタプール郡バクタプール市】

2015 年の大地震で大きな被害をうけ、その後経済状況が困難になった学生たちが就学を継続でき、10 年生(中等教育終了学年)を修了し高等教育に進学するまでの支援を行った。今年度 1 名中等教育を修了した。

●**バングラデシュ**

BDP 教育支援事業 38名

【ダッカ・ガジプール県】

バングラデシュでは小学校卒業以上の就学費負担が高額のため個人負担費が多くなるために中学校以上の就学率が下がる。そのため就学意欲のある子どもが中等～高等教育を受けることができるよう就学支援を実施。

●**フィリピン**

ASI 教育支援事業 30名

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

【マニラ市マラテ町サンアンドレス】

マニラ市郊外のダスマリネス町バリパランに強制移住させられた家族の子どもたちと、彼らの元居住先であった国鉄線路沿いの地区、サンアンドレスにて移住先のない家族の子どもたちが継続して就学できるように、授業料、教科書、教材支援に加え、学校補習を支援した。

2. 教育設備・環境整備

(1) **学校建設**

(2019 年 3 月現在)

国名	2018 年度建設数	校舎棟累計数
インド	4	24
インドネシア	-	2
カンボジア	1	42
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	4	※42
パキスタン	-	2
フィリピン	1	8
ベトナム	-	3
合計	10	134

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●**ネパール**

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援 1棟

【シンドゥパルチョーク郡メラムチ ジャミレ地区】スリー ゴルメスウオリ ベイシック スクール

※地震により倒壊した校舎の復旧に対する建設を実施。詳細はネパール中部大地震支援事業の欄に記載。

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援 3棟

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.Word No.10】スリー チャンデソワリ小中高等学校
校舎 2 棟(4 教室)、トイレ 1 棟

●**フィリピン**

ASI デイケアセンター建設支援事業 1棟

【リザール州カルドナ町サンパッド村、ナグサンディグ集落】

2009 年に発生した台風オンドイにより破壊されたナグサンディグ集落の子どもたちの就学前教育、学校教育補習施設であるデイケアセンターが、本年度完成させることができた。政府の認可も受け、これまで幼児を預けることができず困っていた両親や遠方まで補修に行かざるを得なかった子どもたちのためのセンターが出来、地域の就学環境を向上させることができた。

(2) **教育環境整備**

●**インド**

BSVIA 日印友好学園コスモニケタン

【カルナータカ州ビジャヤプーラ県ブルナプール村】

コスモニケタン学園の小学校に必要な机、イス供給。校内に新しい井戸の設置を実施した。

RUDYA 日印友好学園パダトラ小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

インド共和国記念日に、全校生徒対象に新しい制服、教科書、教材および遊具を支援した。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

●**インド**

SSH HIV/AIDS 支援

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

家族の一人が HIV/AIDS に感染し、安定した生活を送ることができず、子どもへの教育継続のままならない世帯に対して、栄養食の配布、抗 HIV/AIDS ウィルス薬の定期接種、HIV/AIDS に感染しながら生活するためのトレーニング、マイクロクレジットを支援している。今年度もタミルナードゥ州ナマカル県、ディンディガル県の農村 5 世帯を支援した。タミルナードゥ州において、HIV/AIDS の感染経路となっていた移動労働者の感染率は、これまでの支援の結果、減少傾向にあり、2018 年度は、支援地内において、新しく感染した世帯はなかった。今後も支援を強化し、HIV/AIDS 新規感染フリーな環境をつくることを目標とする。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●**ネパール**

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティー-N.P.ピトゥリ村】

ネパールの農村では日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。その原因は大きく二つあり、一つ目は経済的な要因。二つ目は栄養に対する理解不足である。そのため、小学校での給食と栄養知識普及を行うことで、子どもたちの健康や成長不全状況が改善されることを目指している。栄養については、家庭で意識をした食生活が無に等しい状況。特に農村部ではカロリー確保するために炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 200 名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援(24 年間)。学校のプログラムに組み込まれ教育的要素を兼ねたプロジェクトとなっている。継続支援を行う事で就学児童たちの健全な学校生活と健康保全に繋がっている。

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市内の国鉄線路沿のサン・アンドレスにて、廃材でつくられた家にて生活を送る世帯、また一部がバリパランに強制移住させられ、安定した経済状況を送ることが厳しい世帯に対して、子どもたちが教育の道から外れないよう、支援を実施。今年度も、子どもたちへの学用品等の支援、学校の補習授業、衛生・環境教育、スポーツやダンスなどのレクリエーション教育などを 2 実施し、子どもたちの自信を高めることができた。今年度も支援した子どもたちのドロップアウトはなかった。



ネパールにて里子たちの同窓会を企画・実施



日印友好学園コスモニケタン 昼食の時間



カンボジアの里子（日本人から鶴の折り方を教わり試しているところ）



ネパール、給食支援の様子

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

(1) マイクロクレジット支援

●スリランカ

SARVODAYA サルボダヤ農村地域の人材育成支援

【スリランカ全域】

スリランカ提携団体サルボダヤのビジュバ・ニケタン国際平和・瞑想研修センター(人々の心に眠る能力を覚醒させる)およびサルボダヤ・スワセタ・セワ(孤児の教育・障害者の職業訓練支援、高齢者支援)に昨年に引き続き、ボランティアシニアスタッフ、クラシリ、ピタナワサムを派遣し、かかる人件費を支援した。

(2) 小規模産業育成支援

●インド

HDSI 低所得層の女性による養鶏を通じた生活改善

【マハラシュトラ州アムラワティ県アチャルプール地区ダリヤバード村】

HDSI が 2002 年から携わり、昨年度、養鶏や小屋、エサ、ワクチンなどを提供したアチャルプール地区ダリヤバード村の女性の自助グループ(SHG)の 50 世帯を対象に、養鶏トレーニング(感染症の防止など)、養鶏から得た収入の貯蓄などの指導を行った。

SPARSH 女性の雇用促進支援事業

【マハラシュトラ州ガッチロリ県ダンノーラ地区】c

性や生殖に関する差別や虐待をなくし、雇用を生み出すために、農村の女性たちが働けるナプキン工場を作り、原材料の支援を行う計画であったが、現地の諸事情により、同事業は現地の諸事情により中止。代わりに、村の女性自助グループ(SHG)やハイスクールの女子に対して、性と生殖に関する指導、デリーの NGO から提供されたフリーナプキンの提供、普及への理解へと活動を変更した。

●ネパール

AFS-Nepal 養蜂による小農家収入向上支援

【ナラヤニ県チトワン郡ゴイラコット/シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P. 10 地区(旧ボテンパ村)】

農業による暮らしが成立せず出稼ぎや移住が多発する農村部の人々が安定収入により暮らしが成り立つことを目指し、持続可能な地域づくりを目指して農業支援を実施。チトワン郡では、養蜂による副収入をえるプロジェクトを 5 年実施し、一定の生産量が確保できつつある。現地の蜜の花の種の支援及び生産者リーダーを日本の岐阜の養蜂場で研修実施により継続的な実施を促すフォロープログラムを実施。

シンドゥパルチョーク郡では今年より農業生産向上プロジェクトを実施するにあたり各集落のリーダー組織を結成し、リーダーシップトレーニングを実施し、30 名が参加した。

(シンドゥパルチョーク郡の事業については

平成 30 年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業)

●フィリピン

AFS-UMD マングローブ植林プロジェクト 15,000 本

【ソルソゴン州マトノグ町ゲナブラン村】

沿岸地域の養殖開発や薪のために失われたマングローブを取り戻し、漁業に携わる人々が持続的に人々の漁場を作るために 2012 年度から開始したマングローブ植林事業。本年度は、新たに 1 つの村が事業に加わり、計 15,000 本、累計 100,700 本のマングローブを植林することができ、5 年で 10 万本の目標を達成することが出来た。毎日の生活に追われていた人々の心にも環境保全の意識が少しずつ変化し、マングローブ植林や成長のためのメンテナンスに協力する人々が増えてきた。

(3) 職業訓練

●インド

IJSDC インド、カルナータカ州バンガロール県における低所得層の若者の安定した雇用確保のための職業訓練学校建設事業(第1期)

【カルナータカ州バンガロール県バガルール地区バガルール村】

2018 年 2 月 20 日に本事業を開始した職業訓練学校建設は、A 棟(教室、寮、キッチン、教員室)、B 棟(事務室)、C 棟(技術訓練室・研究室)、D 棟(多目的ホール)、生徒用のトイレ、バスルームが完成し、無事終了することができた。

インド中央政府の職業訓練・実業家育成省が中心となって広めている職業訓練専用のプログラム「Skill India プログラム」において職業訓練のカリキュラムを提供している National Skill Development Corporation (NSDC) からカリキュラムの提供を受け、学校を開校することが出来た。学校のカリキュラムは、基礎技術研修(自動車工・電気工)、職業倫理研修(サービス業、ホテルなど)、小売業研修、ビジネスマナー研修、英語研修などが行われ、それぞれの科目の中で決まった時間訓練を受けなければ、研修をパスすることが出来ない仕組みとなっている。

本校は、製造業などの技術訓練を中心とした学校でなく、これまで職業訓練教育の欠けており、低所得層の若者たちが村や学校で学ぶことのなかったビジネスマナー(タイムマネージメント、社内における自己表現、服装、心構えなど)を指導を通して、持続的に働ける社員を育てることが目的である。

2018 年 2 月 20 日から学校建設をはじめ、カリキュラム作りと中央政府認知をめざす活動を同時進行で行った。天候不良と連携を模索していた機関との作業中断に伴い、当初予定していた 2018 年 9 月 20 日事業終了を見直さざるをえなくなった。また、事業延長に伴い、開校時期を 9 月から翌年の 4 月へと大幅に変更することになった。結果的にカリキュラムは独自のものではなく、NSDC から提供されることになったが、結果的に生徒のニーズにかなない、政府承認にも近づく良い結果となった。

学校運営は、現地提携団体 IJSDC 移行した。IJSDC も B 棟に事務室を置き、学校運営を行っていく。本会は、資金協力とモニタリングを継続して行い、運営を安定させると同時に、現地のニーズに伴い、学校やカリキュラムの内容を拡充していく予定である。当面は、学費と企業寄付(卒業した生徒を採用した企業が一人にかかった食費や諸経費などを支払う NSDC 推奨のシステム)ことになっており、それにより運営を継続していくことになった。

今後必要なことは、NSDC 提供のカリキュラムを継続し、良い人材を生み出し、実績を積み、より多くの生徒を企業採用にもって

いくこと、それにより企業から信頼を高め、様々な形で企業から協力金をもらい、学校を持続的に運営していくことであります。本年度は、学校建設やカリキュラムの提供、政府の承認だけでなく、学校運営を維持継続していくための最も重要な土台を完成させることが出来た。

(平成 29 年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業)

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2019 年 3 月現在)

国名	2018 年度完成	累積
インド	11	1,205
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	26	978
タイ	-	9
ラオス	-	1
合計	37	2,478

●ネパール

AFS-Nepal 農村トイレ建設支援 (バイオガスプラント設置付帯事業) 24 基

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区 (旧ボテシパ村)】

ネパールでは、バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。本会のバイオガス設置対象としているボテシパ村では今年度はバイオガスプラント 24 基の設置に対し 24 世帯にてトイレの設置が行われた。

AFS-Nepal 学校へのトイレ建設支援 2 棟

【バグマティ県バクタプル郡バゲスワリ村】

子どもたちの健康的で健全な学校生活を目指し、メラムチ N.P. のジャミレ地区、スリー ゴルメスウォリ ベイシック スクールへ 1 棟、インドラワティ G.P.10 地区チャンデソリ小中学校に 1 棟のトイレを新規建設した。

(2) 医療支援

●インド

RUDYA ムスカ村健康増進プロジェクト

【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

2017 年 11 月に開設したムスカ村の病院に対して、常勤の看護師 1 名、事務員 1 名の支援と、週 2 回、ガッチロリの町か派遣している医者診察を支援した。加えて、喘息緩和用の吸入器(ネビュライザー)の購入、処方薬(感染症用の抗生物質、痛み止め)、注射、その他医療機材などの維持管理を支援した。

今年度も約 3,700 名(ムスカ村および周辺 11 カ村)の人たちが医者からの診察を受けることができた。定期的に診察が受けられるようになり、迅速に医療処置が行われることから、医療への理解と信頼がより深まり、軽症から重症への変ることがなくなっ

た。RUDYA が、デリーの NGO から毎年 200 枚の生理用のナプキンを受けており、今年度は、ムスカ村の女子高生にナプキンを配布することができ、同時に啓発を行った。

村からは常勤の医者を探められているが、村には医者が安全に生活できる家や待遇を準備することができないために、引き続き、週 2 回、医者を派遣している。病院運営は、今年も村から運営費用の 40%を集め、60%を本会が支援した。

(2018 年度連合愛のキャンパ助成事業)

●ネパール

AFS-Nepal 地域医療向上支援事業

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区 (旧ボテシパ村)、カトマンズ郡ブッタニルカント N.P. (旧チュニケル村)】

ネパールの女性たちの多くは経済的な理由や薬局がないことで、月経の際に市販のナプキンを使用することは少ない。使用しても処理する術がなく、埋めて処理をする場合が多い。そのため月経時に学校を休む女子学生が絶えず、加えて月経に関する知識などを母親や学校からも教えてもらえず自分で堪えている子どもが多い。その上、生活上の制限がかけられる習慣がある。女子学生が自分の健康を守ると同時に安心して学校生活を送れるように、日本の有志により布ナプキンを作成し、そして自分たちの体の事を正しく理解するために性教育を現地の助産師や大学生のボランティアの協力を得て実施した。本年は日本の助産師にも現地で講習会を行ってもらい、女生徒たちの知識と意識向上につなげた。

●中華人民共和国

アナディアル病院支援事業

【新疆ウイグル自治区】

距離や経済的理由から今まで医療を受けることができなかった農村地域の貧しい人々の医療環境改善を目的に 2007 年に設立。一人でも多く医療を受けられるよう支援を予定していたが、現地事情により、本年度は事業を中止。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワーク AFS の各国部会 (NGO) の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

HDSI(インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運営費及びプログラム経費を一部補助。

KAFS(カンボジア)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA (スリランカ)

サルボダヤの元スタッフのクナシリ氏の活動費を支援。水事業継続、サルボダヤの瞑想研修センターの人材育成、孤児の保護と教育・障害者の職業訓練、高齢者の支援施設であるサルボダヤ・スワセタ・セワにおけるファシリテーターの育成を行った。



バンガロールに完成した職業訓練学校の正面門と看板



女子性教育セミナーで本会会員が作成したナブキンを配布



フィリピンにて 10 万本のマングローブ植林を達成した。



インド、ガッチロリ県のムスカ村の医療支援の一環として RUDYA が農村の子どもの性的虐待についてセミナーを実施しているところ。



カンボジア、タケオ州トレン郡にて、村落開発組合と婦人のグループと KAFS にて会合を行っているところ。



ネパール養蜂事業の日本研修を実施し、技術向上を図る。

I-D. 環境事業

1. 植林・水源涵養林養育

持続可能な社会に向けて、災害や環境破壊から地域の回復力（レジリエンス）強化においても、環境保全が当たり前ようになってきた。本会が活動する農村の人々も地球温暖化により農作物の収穫量が減少していき、農業を捨て、都市部への労働移住に拍車をかけている。都市部への人口集中により、車移動による排ガスなどがさらに増加し、環境汚染悪化の道をたどる一方である。

これらを防ぐためには、地域のリソースを活かしながら、自然環境が自らの社会にもたらす影響を教育や啓発を通して学び、自然を守る心を育て、環境保全を実践していかなければならない。

2018年度は、ネパール、インドネシア、フィリピンにて植林が行われ、地域の人たちから多くの参加を得ることができた。これらをきっかけに更なる地域の人々の植林に対する参加と地域から環境を変える思いを持った市民が生まれることが期待される。

(1) 植林

(2019年3月現在)

国名	2018年度植林	累積
インド	-	712,205
インドネシア	1,600	204,960
カンボジア	-	18,000
スリランカ	-	675
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	1,000	301,654
パキスタン	-	4,560
フィリピン※	15,200	155,515
バングラデシュ	-	26,500
	17,800	2,550,094

※フィリピンマングローブ植林は貧困対策事業として実施。

●インドネシア

HOSANNA 植林 1,000本

【北スラウェシ州タリセ島エアバヌア村】

北スラウェシ州の孤島タリセ島は、人口570人（160世帯）が住んでいる。この村の唯一の小学校は、北スラウェシ州の中で最も清潔できれいな学校として認知されている。その生徒たちと村の代表者を中心に、エアバヌア村の環境保全啓発と植林を実施するために、日本からワークキャンプにて参加者を集め、村の経済的一助になるよう果樹の植林（ジャックフルーツやマンゴーなど）を1000本を実施した。

AFS-Aceh 植林 600本

【アチェ州アルーナガ村】

アチェ州は、2003年12月に発生したインド洋スマトラ沖大地震・津波の最大被災地。多くの国際機関の援助により村々は復興したが、災害が風化し、地球温暖化の影響が押し寄せる中、人々は

ますます環境を汚染するようになった。災害当時に防潮林であるマングローブの植林を行った AFS-Aceh のスタッフと地元の大学生との協力により2017年に再び環境保全と地元の小学生の環境教育を目的に、マングローブの植林を実施し、子どもたちに環境保全への気づきを与えることができた。本年度も引き続きマングローブの植林600本と地元の小学生に対する環境教育を実施した。多くの子どもたちが植林、環境教育クラスに参加し、津波の風化への抑制へと繋がった。

(2018年度公益信託地球環境基金助成事業)

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 200本

【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティN.P.ピトウリ村】

地域住民の手による環境保全を目的とした植林活動を実施。FUG（フォレストユーザーズグループ）はコミュニティフォレストとして地域の森作りを実施している。特に地域の水害及び水による土砂崩れを防ぐための植林を実施し、毎年植林を続けてくことで村を守る役目や森の形成につながっている。近隣の学校がグリーンスカウト活動の一環として携わり、水源涵養林やラタンの植樹を実施した。

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 800本

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区(旧ボテシパ村)】

地震により住居地の草木なども多く倒壊してしまった中、ようやく家が完成し、暮らしを取り戻そうとしている地域に住環境整備と土砂崩れを防ぐために植林活動実施。チャーブと呼ばれる広葉樹林の植樹を実施した。加えて地域の公園づくりを目指している。(2018年度緑の募金助成事業)

●フィリピン

AFS-Pandan パندان水源の森植林 200本

【アンティーク県パナイ島パندان町】

マロンパティの水源地を守る森保全のための植林を実施。地元の小学生や中学生・高校生が中心となり、植林をおこなうと共に定期的に草刈りや苗木の成長の確認をおこなっている。地域の環境保全の意識も高まり、清掃等も積極的におこなわれるようになってきた。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて16カ国にて展開。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。本年度もインド、ネパールにて、環境保全啓発のための運動やセミナーが行われた。

●インド

HDSI グリーンスカウト運動支援 1校

【マハラシュトラ州アムラワティ県チャンドラバザール地区】

チャンドラバザール地区は、アムラワティ県においても農村と都市部を結ぶ橋として知られており、昨今はアムラワティ県中心地の経済開発により、農村部の移住者が、チャンドラバザール地区に居住するようになり、一部はスラム化していき、ますます環境が悪くなってきた。HDSI は、チャンドラバザール地区にて小学校(英語を言語とする)を運営しており、ここの子どもたちと共に毎月1回、グリーンスカウト運動として、清掃活動や園芸、環境保全劇などを実施している。2018年度も引き続き、地域の小学生たちと環境啓発・教育を行った。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー 3校

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区 (旧ボテシパ村)】

環境活動により地域環境、学校環境活動を行うためのジュニアリーダー育成を行う小学生対象の環境セミナーを8月と12月に地区内の3校の児童及び教師を一同に集め実施。8月は、周りの環境及び緑の役割について理解を深め、実際に植林作業を行うなどの活動も含め2泊3日で実施。12月は、ゴミや身の回りのエネルギーについて学ぶと同時にネパールの特別なエネルギーであるバイオガスと木の関係を学び植林の大切さの理解を8月に植えた植樹の様子を確認すると同時に行った。いずれも持続可能な地域づくり(含学校)を行うためにどのような行動が必要なのかを考え、最終的に目標をたて、実施していくため学校全体でシェアし合った。12月は主にカトマンズの地域政策を学ぶ大学生が主となり実施した。

参加校=チャンデソワリ小学校、サラソティ小学校、ジャネソワリ小学校

参加者=各学校より児童5名+教師1名

今年度は、気候不順と道路インフラの工事の関係でこれまでこのプログラムに参加していたノールパルシ郡やカトマンズ盆地内の学校からの参加が出来ず、残念であった。来年度は再度参加できる体制を目指したい。

※一部、りそなアジア・オセアニア財団環境プログラム助成にて実施

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【カトマンズ郡ブタニルカクタ N.P.チュニケル村、ノールパルシ郡カワソティ N.P.ピトゥリ村】

農村開発プロジェクトを実施している地域において、村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。ピトゥリ村GSは、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサンティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して継続実施している。チュニケル村GSは、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃や河川清掃、植林を実施し、積極的な環境保全活動を実施した。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 24基

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ(旧ボテシパ村)】

資源がないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスが、確実な燃料確保につながると同時に、森の保全に繋がるために村人に着目されている。そして現在特に注目されているのが、ガスが出た後に排出される糞のカス、スラリーの農業への肥料利用である。対象エリアは、地震よりの復興の中、住宅再建と共にバイオガスプラントを設置を推進し、生活の基盤を整えると同時に、環境を考えた地域づくりをめざすために本事業を昨年試験的に実施し、本年度より本格的に始動した。バイオガスプラントの設置は、環境保全のみならず農村地区の人々の生活改善(薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善)にも大きく寄与している。効果として、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70~90%削減することができ、国土の30%台にまでに減少(以前は70%)した森林面積の回復にも繋がる。同時に普及セミナーの実施を行うと共に、トイレの併設も進み衛生向上にも繋がっている。今回の支援により年間の薪の使用量を約67,200kg、また二酸化炭素排出量を120トン(1基当たり年間5トン減少)抑えることができた。

【現在まで累計1,144基設置】

※本事業は、りそなアジア・オセアニア財団 環境プログラム助成により実施



ネパール、バイオガスプラントの講習会の様子



ネパール、環境プログラムにてゴミの性質を指導中

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業である。

大阪府内の放置自転車の数は年間 50 万台にのぼり、内約半数は引き取り手がないため大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。

こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リユースの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。

2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府等がメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくようサポートしている。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 723 台、車椅子 2 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の 7 ヶ所から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市 200 台、八尾市 100 台、泉佐野市 110 台、
大阪市 119 台、泉大津市 55 台、高石市 50 台、
東大阪市 89 台

今年度はタイに 350 台、カンボジアに 373 台、合計 723 台の自転車が寄贈された。事業開始以来、アジア、アフリカの 10 カ国に合計 31,430 台の自転車と 2 台の車椅子を贈ることができた。

タイ 350 台

タイに贈られた自転車は、スパンブリー県の子どもの通学に加え、コミュニティワーカー、医療従事者の巡回、貧しい農民、病院(脚の手術をおこなった患者のリハビリ用)、環境保全の活動に従事する人々に手渡され、有効に活用されている。

バンハーンジャムサイ工科大学では、カリキュラムのひとつに自転車の修理・メンテナンスを取り入れ、受益者達が安全に長く自転車を活用できるよう、サポート体制がつくられている。また、自転車が手渡される前に、受益者には安全講習をおこなわれ、メンテナンスも含め事故のないよう、指導がおこなわれた。

遠方から通う子ども達にとって、教育を継続して受けるために自転車は非常に大きな助けとなっている。今回の寄贈をきっかけに、NGO、地方行政、村人、学校の先生、保護者、地元有力者等によるネットワークが形成され、スパンブリー県以外の県にもその協力体制が広がっている。今後も人と環境に優しい自転車を通じて地域の生活改善に取り組むこととなった。

2 月 8 日～13 日には国際交流プログラムがおこなわれ、自転車の有効活用について様々な意見交換がおこなわれた。

カンボジア 373 台

カンボジアに贈られた自転車は、学校に通う子ども達や先生、地域のコミュニティワーカーや自転車を必要としている農民達に寄贈され、通学や仕事のために活用されている。

自転車の利用で地域の農民達が効率よい生活環境に変えていくことにより、女性の社会進出や生活向上へつながっている。また、勉強を続けたいが、家庭の経済的状況のため毎日の通学や進学をあきらめていた小・中・高校生の子ども達に寄贈され、毎日安全に通学し、継続して教育を受けられるようになった。

自転車を受け取った子ども達や家族はとても喜び、大切に自転車のメンテナンスをおこない、またより熱心に勉強や仕事に取り組むようになってきている。

自転車の寄贈は、公平により必要とされている人々に贈れるよう、政府、NGO、村の組織等で協力体制をとりながら、話しによってきめられている。今年度はタケオ州プレイカバ地区のチャンパー村やプレイベン州プレイヤン地区、メソプロチャン村の中で必要としている人々に寄贈された。受益者の決定については各家庭を訪問し決定された。まだ、多くの希望者が待っており、事業の継続が求められている。

(2) サイクル・エイド関連国内プログラム

◆ サイクル・エイド支援会議開催・意見交換・事業報告会

日程:2018 年 6 月 25 日(月) 場所:大阪府

参加者:10 名

内容:寄贈先での自転車利用状況や活用方法について報告会をおこなった。現地で自転車を必要としている村の状況や子ども達を取り囲む環境についてより深く知ってもらいことができた。また、この事業から派生して環境保全の取り組みや、福祉環境の改善、地域の他の事業への協力体制も徐々に強まってきていることから、事業を継続しておこなっていくこととなった。

◆ 泉大津フェニックス野外コンサート

日程:2018 年 8 月 25 日(土)、26 日(日)、9 月 1 日(土)、17 日(月・祝)

場所:泉大津フェニックス

主催:泉大津フェニックス夏フェス 18 実行委員会事務局

来場者数:合計 約 66,000 人

<内容>

泉大津フェニックスが誕生した新しい町「夕風町」では、空と海、そして全面芝生という心地よい空間で、野外コンサート等各種イベントが開催されている。今年度は RUSH BALL2018、OSAKA HAZIKETEMAZARE FESTIVAL 2018 が開催され、多くの音楽ファンを魅了した。コンサート主催者の多大なる協力のもと、会場内のブースでサイクル・エイド事業の活動紹介とチャリティ出展をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

◆ 第 44 回四條畷市民の集い

日程:2018 年 10 月 28 日(日) 場所:四條畷市

主催:市民憲章推進協議会

<内容>

サイクル・エイド事業の広報活動として展示と活動紹介、チャリティ出展をおこない、海上輸送への協力を得ることができた。

◆国際交流プログラム

【フィリピン料理教室】

日程:2018年4月10日(火)

場所:クレオ大阪西 参加者:16名

【タイ料理教室】

日程:2018年5月29日(火)

場所:クレオ大阪西 参加者:17名

【ベトナム料理教室】

日程:2018年6月26日(火)

場所:クレオ大阪西 参加者:21名

【スリランカ料理教室】

日程:2019年3月16日(土)

場所:クレオ大阪西 参加者:14名

内容:寄贈国の料理を通じて、楽しく身近にその国を理解できるよう、日本に住むその国の講師に迎え、料理教室をおこなった。参加者は家庭料理を学びながら、その国の習慣や文化等についても話を聞き、プロジェクトの背景についても知ることができた。

【第35回土と水と緑の学校】

日程:2018年8月6日(月)~11日(土)

場所:新宮市

内容:子どもたちの自然環境教育プログラムにフィリピンより参加。大自然の中での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営みや自然を大切にすることを学び、未来を担う子ども達により豊かな心を育てていく環境教育や地域の環境保全等について意見交換をおこなった。

【タイ 国際交流プログラム】

日程:2019年2月8日(金)~13日(水)

場所:タイ スパンブリー県

参加者:約200名

内容:自転車寄贈先であるバンハーンジャムサイ工科大学を拠点として自転車贈呈式典がおこなわれ、行政・学校(教師・保護者・生徒)・農民等の村人達を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。本事業に関係する様々な分野の協力者と意見交換をおこなうことで、今後の事業の必要性や進め方や取り組みについて話し合うことができた。市民によるバッピーバイク&ウェルチェアネットワークがつくられ、安全で効果的な自転車利用についてサポート体制が整えられた。また、地球や地域の環境保全について意見交換をおこない、次世代のために協力体制を組んで環境保全に取り組み、継続した活動をおこなっていくことを確認した。

【カンボジア 国際交流プログラム】

日程:2019年3月27日(水)~31日(日)

場所:カンボジア タケオ州、プレイバン州

参加者:約200名

内容:自転車寄贈先であるタケオ州とプレイバン州の小学校で自転車贈呈式典をおこない行政・学校(教師・保護者・子ども)・農民等の

村人達を対象に、現地提携団体とともに本事業の目的・目指すところ・事業内容等の紹介、説明をおこなった。

自転車を必要とする子どもたちの通学環境や村での生活の様子をすることが出来た。また、地元の協力者と意見交換をおこなうことで、今後の事業の必要性や進め方や取り組みについて話し合うことができた。また環境にも優しい自転車を活用することで、地球環境保全への意識を高め、同じ地球市民としての視点を持ち、互いに協力しあう国際交流の推進活動を上げていくことが期待される。自転車を通じて、日本と各国の国際交流が活発になり、また、事業を継続することで人と人の絆が深まり、草の根の理解と協力の輪と協力の輪が広がっている。

※この事業は競輪の補助を受けて実施しました。



タイ サイクルエイド車椅子の寄贈



カンボジア自転車の寄贈(手を合わせて「オーケンチュラン」クメール語でありがとうの意味)

I-F. ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

2018年度は、カンボジア、フィリピン、インドネシア、ネパール 4カ国、14回のワークキャンプを実施、のべ248名が参加した。

1. フィリピンマングローブ植林交流キャンプ

期間:2018年5月10日～5月15日

場所:ソルソゴン州マトノグ町

参加者:10名

内容:マングローブ植林、農業支援、国際交流

2. 第45回イオン労連カンボジアワークキャンプ

期間:2018年5月15日～5月19日

場所:タケオ州トレン郡クバブ地区サモールクロム村

参加者:27名

内容:井戸建設、交流

3. 第46回イオン労連カンボジアワークキャンプ

期間:2018年5月22日～5月26日

場所:タケオ州トレン郡クバブ地区サモール村

参加者:27名

内容:井戸建設、交流

4. イオン九州労組・マルナカ労組・マックスバリュ中部労組

カンボジアワークキャンプ

期間:2018年6月4日～6月9日

場所:タケオ州トレン郡クバブ地区タスレン村

参加者:33名

内容:井戸建設、交流

5. イオンリテールワーカーズユニオン

第8期アセアンセミナー (インドネシア)

期間:2018年7月4日～9日

場所:北スラベシ州タリセ島エアバヌア村

参加者:24名

内容:植林、交流、商業視察

6. ネパール植林ワークキャンプ

期間:2018年8月7日～8月13日

場所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

参加者:4名

内容:植林活動、環境セミナー参加、交流

7. 京都暁星高等学校 ネパールワーク研修ツアー

期間:2018年9月18日～9月25日

場所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

参加者:12名

内容:飲料水供給事業活動、交流、文化視察

8. 第47回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ

期間:2018年11月13日～11月17日

場所:タケオ州トレン郡ロネアム地区ソフィ村

参加者:29名

内容:井戸建設、交流

9. 第48回イオングループ労連カンボジアワークキャンプ

期間:2018年11月20日～11月24日

場所:タケオ州トレン郡ロネアム地区トラバントム村

参加者:22名

内容:井戸建設、国際交流

10. マックスバリュ中部労組、マルナカ労組、イオン九州労組

カンボジアワークキャンプ

期間:2018年11月26日～11月30日

場所:タケオ州トレン郡ロネアム地区トラパンチュレイ村

参加者:18名

内容:井戸建設、交流

11. 第6回オムロン労組カンボジアワークキャンプ

期間:2018年12月5日～12月9日

場所:タケオ州トレン郡プレイスルック地区プレイスルック村

参加者:12名

内容:井戸建設、交流

12. インドネシア、アチェワークキャンプ

期間:2018年12月5日～12月9日

場所:インドネシア、アチェ州

参加者:3名

内容:植林、環境教育、交流

(2018年度公益信託地球環境基金助成事業)

13. ネパール 保健支援事業セミナー&校舎建設完成式及び支援事業視察ツアー

期間:2018年2月9日～2019年2月19日

場所:シンドゥパルチョーク郡、カスキ郡など

参加者:7名

内容:母子保健及び女性保健に対するセミナー実施、ノートルダム学校視察、地震被災地事業の視察及び学校建設完成式出席

14. ネパール飲料水支援ワークキャンプ (Salus Aqua)

期間:2019年3月20日～4月1日

場所:シンドゥパルチョーク郡

参加者:6名

内容:井戸建設、事業視察、交流

2. 海外プロジェクト視察

1. インド 職業訓練学校建設実施

期間:2018年4月1日～12月18日

場所:カルナータカ州バンガロール県

派遣者:横山 浩平

内容:職業訓練学校建設、現場責任者として駐在

(平成29年度日本NGO連携無償資金協力支援事業)

2. ネパール 支援事業視察

期間:2018年4月25日～5月2日、5月7日～5月12日

場所:バグワティ県内各地、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、バクタプール郡、ノールパラシ郡、チトワン郡

派遣者:熱田典子

内容:地震支援事業、バイオガスプラント支援事業及び環境事業、教

育事業のセミナー等の実施、農業支援事業調整及び視察

3. インド 職業訓練学校建設視察

期 間:2018年5月3日～5月6日

場 所:カルナータカ州バンガロール県

派遣者:熱田典子

内 容:職業訓練学校建設視察

(平成29年度日本NGO連携無償資金協力支援事業)

4. フィリピン 京セラ労組支援事業視察

期 間:2018年7月24日～7月26日

場 所:ヌエバエシハ州カピアオ町、サンタローザ町、ハエン町
カバナトゥアン市、ガバルドン市

派遣者:京セラ労組2名、岡本佳子

内 容:寄贈井戸視察、国際交流等

5. フィリピン 支援事業視察

期 間:2018年7月24日～7月26日

場 所:マニラ

派遣者:坂口久代、岡本佳子

内 容:プロジェクト視察等

6. ネパール 支援事業視察

期 間:2018年8月5日～8月22日

場 所:バグワティ県内各地、シンドゥパルチョーク郡インドラワティ
G.P.10 地区、バクタプール郡

派遣者:熱田典子

内 容:地震支援事業、環境支援事業(環境セミナー実施)、教育支援
事業の視察等

7. インド 職業訓練学校建設視察

期 間:2018年12月3日～12月13日

場 所:カルナータカ州バンガロール県、ビジャヤプーラ地区

派遣者:村上公彦、柿島裕

内 容:職業訓練学校建設視察、コスモニケタン学園視察

(平成29年度日本NGO連携無償資金協力支援事業)

8. ネパール 支援事業視察

期 間:2018年12月8日～2018年12月17日

場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、カトマンズ
郡ブッタニルカンタ N.P. チュニケル村

派遣者:熱田典子、同行者:平原榮子さん

内 容:保健衛生プロジェクト視察、地震支援事業

9. ネパール 支援事業視察

期 間:2018年12月25日～2019年1月8日

場 所:シンドゥパルチョーク郡ボテシハ村、バクタプール郡
ノールパラシイ郡 他

派遣者:熱田典子 現地同行:岡田光弘さん

内 容:地震支援事業、教育支援事業、環境セミナー実施及びその
他事業調整

10. インド 職業訓練学校開校準備

期 間:2019年1月15日～2月17日

場 所:カルナータカ州バンガロール県

派遣者:横山 浩平

内 容:バンガロール県の職業訓練学校の開校準備

11. タイ AFS/ICO 会議

期 間:2019年2月6日～2019年2月12日

場 所:タイ、ナン県

派遣者:村上公彦

内 容:プロジェクト視察、環境セミナー実施、

12. インド 職業訓練学校開校準備

期 間:2019年1月15日～2月17日

場 所:カルナータカ州バンガロール県

派遣者:横山 浩平

内 容:バンガロール県の職業訓練学校の開校準備

13. タイ サイクル・エイド国際交流プログラム

期 間:2019年2月8日～2月13日

場 所:スパンブリー県

派遣者:小原純子、橋本隆、岡本佳子

内 容:サイクル・エイド事業視察、国際交流等

14. ネパール 支援事業視察

期 間:2月26日～3月3日

場 所:カトマンズ、在ネパール日本国大使館

シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

派遣者:熱田典子

内 容:平成30年度日本NGO連携無償資金協力支援事業 在ネ
パール日本国大使との署名式

申請事業のプロジェクト開始準備調整

15. ネパール 支援事業視察

期 間:2018年3月20日～2019年4月21日

場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区、カトマンズ
派遣者:熱田典子

内 容:事業実施調整業務、ネパール事務所機能調整、事業地のリ
ーダー研修

(平成30年度日本NGO連携無償資金協力支援事業)

16. ネパール 支援事業視察

期 間:2018年2月9日～2019年2月19日

場 所:シンドゥパルチョーク郡メラムチ N.P.

視察者:長浜北ロータリークラブ メンバー4名

内 容:スリーゴルメスウォリ ベイシックスクール 2棟目完成
視察

17. カンボジア サイクル・エイド国際交流プログラム

期 間:2019年3月27日～3月31日

場 所:タケオ州、プレイベン州

派遣者:小原純子、橋本隆、岡本佳子

内 容:サイクル・エイド事業視察、国際交流等



インドネシア、エアバヌア村にて植林ワークキャンプ



インドネシア、アチェ州にてマングローブ植林のワークキャンプ



ネパール、植林に取り組む子どもたち



ネパール 完成したチャンドソワリ小中高等学校校舎と完成式に集まった生徒たち



フィリピン、障がい児童のためのバスを寄贈



フィリピン、デイケアセンターの管理について子どもの母親と相談会



インド、バンガロール県の職業訓練学校建設にて建設状況を在バンガロール日本総領事の北川隆行総領事に報告しているところ



フィリピン、京セラ労働組合の井戸視察(寄贈した学校の井戸の訪問と交流)



ネパールにて完成した共同の水場(シンドウパルチョーク郡)



植林に関心を持つネパールの子もたち



地球環境をテーマに絵を描くフィリピンの子もたち



井戸の建設作業に取り組むワークキャンプ参加者(カンボジア)



小規模パイプラインの設置作業(ネパール)



フィリピン、パンダンパイプラインにて新タンクが設置された

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ－A．人材交流・育成事業

1．奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。

●フィリピン

ASI マニラ 1名

2018年度も、フィリピンの大学院大学(本会の現地提携団体)であるアジア社会科学院(Asian Social Institute ASI)に地域開発専門を志望しているインドの提携団体 HDSI スタッフ1名を同コースに派遣した。奨学金として学費と寮費を支援した。

1. Mr. Apana Ambadas Dhamgay

以上の若者は、現在も HDSI スタッフとして同団体の農村開発事業に従事している。

2．海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2018年度は、1名の応募があり下記の通り研修を行った。

研修生名: 溝口竜太郎 (大阪工業大学)

渡航先: ネパール カトマンズ地区

ブタニルカクタ市チュニケル村

渡航期間: 8月6日～9月25日

活動内容: 公立小中学校 ナウリンセカンダリースクールに

算数、数学のボランティア教員

里親の会 里子の状況確認作業



ASI の地域開発専門コースの授業の様子



海外ボランティア研修生の溝口氏と現地の小中学生



インドの若者の養鶏グループを設立 (アジア・ユースサミットの地域をよくするプロジェクトの実践状況の視察)



フィリピン、マニラ・サンアンドレスのダンスクラブの高校生徒交流をする兵庫県立国際高校の生徒たち

Ⅱ-B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

事業名: 第28回アジア国際ネットワークセミナー

基本テーマ: 貧困なき一つたるアジア共同体を目指して

～アジアに理解と協力で連帯の輪をひろげよう～

第28回テーマ: 世界的な気候変動が貧困問題に与える影響とその対策

開催地: 聖アン教会(マレーシア、ペナン州)

期 間: 2018年10月6日～9日

参加国: インド(15)インドネシア(4)カンボジア(5)スリランカ(5)タイ(10)中国(1)、ネパール(1)、バングラデシュ(1)、フィリピン(7) マレーシア(19)、シンガポール(1)日本(13)

参加者数: 81名

歓迎挨拶: ピー・ブン・ホー ペナン州環境大臣

ヘンリー・ルイス・ラジュ 聖アン教会牧師

開会挨拶: 村上公彦(JAFS 専務理事兼事務局長)

西田貞之(JAFS 理事、国際交流事業委員会委員長)

櫻井紘哉(JAFS 理事・第28回アジア国際ネットワークセミナー実行委員会委員長)

閉会挨拶: 小原 純子(JAFS 副会長・第28回アジア国際ネットワークセミナー大会委員長)

基調講演:

「気候変動に対する地域社会の回復力の構築」

講演者: クリア・ウェスト・ウッド

内 容: マレーシア全般における経済発展における大量消費社会の到来をきっかけに二酸化炭素の増加、早魃、海面上昇、洪水などの自然災害が軒並み起こり続けていることを写真やデータなどを使い説明。これらを抑制するために、パリ協定の争点であった気温上昇を1.5℃以内抑制するよう世界各国がより組むべきであり、それを守らなければ世界規模の食糧危機が起こることを警告した。

事例報告

- マレーシア、ペナンにおける海面上昇のケース
マーティンジャラー氏、アンドリューヒュー氏
AFS ペナン
- ネパール平野部における洪水のケース
パダム・シュレスタ氏、AFS ネパール
- インドネシア、バリ島における海岸浸食のケース
シディ・トルカー(ディアナ・プラ大学)
- スリランカにおける気候変動への対応
マヌリ・パバラ・マニケ・ワレボーダ氏
サルボダヤ
- インド、ガッチロリ県における洪水時の初動対応
ディリップ・バルサガダ
スパーシュ

グループディスカッション

- 気候変動に対する地域の対応(各国に分かれて)
- ネットワークセミナーの今後

第28回アジア国際ネットワークセミナー宣言文

テーマ: 気候変動が貧困問題に与える影響と対策について

第28回アジア国際ネットワークセミナーは、マレーシアのペナンにて開催された。インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、シンガポールの11ヶ国から62名、ホスト国のマレーシアから19名が一堂にこの場に集まった。

気候変動は、人災であり、その世界的な影響は、異常気象や自然災害のような形で現れている。また、その頻度は年々高くなっており、私たちは、これらの現象に対して意識を高め、気候変動に強く、しなやかな地域をつくることを目的に、地域に入り、取り組まなければならない。気候変動の影響は、都市部と農村部とは異なる。人や経済、そのエコシステム、熱波によるストレスなど、様々な影響を与える。また、洪水、早魃、海面上昇や津波などの自然災害は、気候変動が一つの原因として考えられている。こういった災害に於いて脆弱なのは、農村地域であり、そこに住む人である。気候変動は、水、食糧供給をストップさせ、インフラが寸断させる。気候変動における食糧供給不足は、今後も人口が増加していく中で人間生活に最大の危機をもたらす。

私たち、AFS ネットワークのメンバーは、気候変動に対し、人と自然のシナジーを大切にしながら、持続的に、シンプルに、誠心誠意、この問題を解決するために行動をしなければならない。これまでの知識や経験を研ぎ澄ませ、地域のグループとともに、声を上げ、立ち上がり、気候変動の影響を最小限にまでとどめ、地域のグループとともに、レジリエントな地域を形成していなければならない。そのために私たちは以下と誓う。

- (1) 気候変動に対して意識を高め、気候変動が与える地域への影響を認識、それが最小限に緩和されるよう、行動をとるロールモデルとなる。
- (2) 地域に昔から残る伝統や知識を活かしながら、地域の人々とともに気候変動に対して立ち向かい、強くしなやかな地域をつくる。
- (3) 国家や自治体の気候変動政策とその課題から、強くしなやかな地域づくりができる3つのステージをつくり、グローバルレベルに影響をもたらす取り組みを行う。

気候変動は、貧困緩和における重大な危機であり、長年の開発への脅威です。気候変動は、世界的な現象ですが、その影響は最も貧しい人たちやその地域にいく。農村に住む人々は、気候変動に対して脆弱であり、自然に高く依存し、生きている。気候変動に対応するキャパシティは、ほとんどない。したがって、開発計画の中に気候変動対策を組み込み、包括的に開発し、同時に気候変動をもたらす脅威や危機を地域の人々に伝え、危機意識を高めなければならない。その基礎が、国連により採択された持続可能な開発目標(SDGs)である。

この宣言文の目的は、貧困緩和のための開発の中に気候変動対策が中心になり、包括的に取り組まれるようにしていくものである。ここで話しあわれた議論が気候変動対策に活かされるよう、テクノ

ロジック駆使し、キャパシティビルディングをし、ソーシャルキャピタルをつくり、私たちは、このはるかなる地球を守る。

(2) 国際ネットワーク機能強化事業

2019年2月5日から12日にかけて、タイ・ナン県において、AFS/ICO※会議を開催。2019年度におけるネットワーク活動について話しあった。財政基盤の確立についての方策を協議した。参加者は8名。2019年度第29回アジアネットワークセミナーをバリに開催することで決定した。

(3) アジア・フレンドシップ夢基金

当基金はAFS/ICO(国際ネットワーク事務局)の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために2008年に設立された国際基金。現在アジア8カ国の各部会が任意に参加している。

国際基金は2010年から夢基金という名目で募金世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久代理事)を設けて国際基金募金に協力している。2018年5月23日、9月28日、12月19日、2019年3月26日に世話人会例会を持った。2018年度募金高は238,585円。

なお、国際基金管理委員会(委員長 T・プラモド、8カ国12人の委員)は毎年一回会合をアジア国際ネットワークセミナー(AINS)に合わせて開いている。

(4) アジア・ユースサミット (AYS)

事業名 第5.5回アジア・ユースサミット

第5.5回テーマ 「多様な社会を地球温暖化に対するグランドデザインづくり」

事業期間 2018年12月12日～14日

事業場所 カルナータカ州ビジャヤプーラ県
日印友好学園コスモニケタン

事業目的

1. 持続可能な社会づくりを目指す若者のリーダーを育成する
2. 若者のリーダー同士のネットワークをつくり、持続可能な社会作りに共に歩む機会をつくる
3. 若者のリーダー同士が考える多様性や気候変動にフォーカスしたグランドデザインをつくる

参加者数 インド(14)、ネパール(1)、スリランカ(2)、日本(4)
合計 21名

日印友好学園コスモニケタン(交流会 舞踊披露)
マニハルスレバン女学院(交流会 舞踊披露)

事業内容

12月12日 プレゼンテーションプログラム
グループディスカッション

12月13日 伝統舞踊の披露
(日印友好学園コスモニケタン生徒)
(マニハルスレバン女学院生徒)
参加各国のバリ協定に関する状況
グランドデザインづくり
フェアウェルパーティ

12月14日 グランドデザイン発表

終了式

第5.5回アジア・ユースサミット グランドデザイン

ビジョン:

持続可能な社会と環境をつくるため、地球温暖化に歯止めをかけるアイデアと行動をとる。

ミッション

私たちは、多様な社会の中であらゆる人々に対して、地球温暖化がもたらす危機を訴え、対応策、実践的経験を普及させ、強い社会をつくります。

私たちが地球温暖化に対して取り組む課題

- 水の課題
- 廃棄物の課題
- 空気汚染の課題
- 農業の課題

これらのビジョン・ミッションを達成するために私たちは、次のプロジェクトを実践していきます。

プロジェクト第一期目: 調査活動

- 事業期間 約3ヶ月
- 事業内容
 1. 対象とする地域を設定し、そこから同じ志を持つ若者を集め、プロジェクトチームをつくる。
 2. 対象地域におけるデータ収集を行う(インタビューや調査フォームから)
 3. 収集されたデータにおいて地域における地球温暖化についての問題が何かを見いだす。
 4. 問題に取り組むための資金を集めるため、スポンサーを探す。
 5. データ集め
 - 対象地域を小さなグループに分け、電気の消費量、ガスの消費量などを調べながら二酸化炭素排出量見つけ出す。
 6. データ分析
 - エクセルに分析したフォームを調査項目ごとに収集したデータから落とし込み、データ解析を行い、各コミュニティがどれくらいの二酸化炭素を排出したかを調べる。
 7. 未来予想
 - 二酸化炭素排出量を減らすために個人レベルにおいてどれくらいの排出量を減らすことができるか調べ、計算する。

プロジェクト第二期目: 地球温暖化について人々に知識や経験、実践を広める活動

- 事業期間 約1年半
- 事業内容
 1. 意見交換会
 - 対話を通じて、地球温暖化に関する知見を高めていく。
 2. 若者への訴え
 - 地域の学校や大学、政府の地区議会などから若者のリーダーを探し、彼らに地球温暖化の危機を訴え、地球温暖化に対するお互いの立ち位置を同じにする。
 3. セミナー活動
 - 地球温暖化の原因や起こっている事象や問題についてセミナーを開催し、知識を高める。

- そのセミナーの中で、二酸化炭素排出量削減のために個々で何が出来るか研修を行う。
4. 政府の役人を招聘
 - 上記のようなセミナー活動に政府の役人を招聘する。
 - 政府の役人は、地域の人々と遠い位置にいる。彼らをセミナーに招聘することにより、地球温暖化における草の根レベルでの問題に近づけさせ、政府レベルにおいて解決出来る手段への門戸を広げていく。
 5. 専門家の招聘
 - 地球温暖化に関する専門家をよび、「取り組む4つの課題」に対する専門的知識を高め、広める。
 - 地球温暖化に対する具体的な解決策を専門的レベルから明確化し、取り組む。
 6. ネットワーク構築
 - これらのプロジェクトに携わる可能性のあるステークホルダーのネットワークを構築するために、一同に候補者を集める。(例：若者や農家の人々、地方、中央政府の役人)
 7. グループディスカッション
 - 地球の日や環境の日のような記念日に、人々を集め、グループディスカッションを開催する。
 - これまでに調査、実践したプロジェクトの報告を行い、これらの活動に必要な資金などを公表し、資金集めの一助とする。
 8. フィードバック
 - 地域の活動、セミナー、グループディスカッションの参加者からフィードバックを集め、次の活動の向上点とする。
 9. スポンサー
 - 私たちの様々な活動にスポンサーを招聘し、プロジェクトの報告と結果を伝える。(次の資金集めへとつなげる)

プロジェクト第三期目：追跡

- 事業期間 6ヶ月
- 事業内容
 1. 目標数値
 - 地球温暖化に対してどれだけの人にどれだけのことか広まったか
 - 地球温暖化と自らの環境、私たちの生活がどれだけ繋がっているか
 2. 結果
 - 地域の人々やステークホルダー同士のネットワークの発展
 - 活動から生かされたアイデアやプロジェクトがどこまで実践され、人々の環境に関する生活習慣が変わったか。
 - 二酸化炭素排出量の変化
 - 社会へ若者から地球温暖化に対する訴え。
 - 地球温暖化の問題を生かした社会実業家の育成
 3. 二酸化炭素排出量の追跡
 - 各世帯の電気やガスの消費量の計測
 - エクセルに各世帯や地域から得た二酸化炭素の排出量を計測
 - グラウンドデザイン作成直後の調査における

- 二酸化炭素排出量と実践後(二年後)の二酸化炭素の排出量の調査を行う。
- 二酸化炭素排出量の家計の支出との関連を見せる。
 - 二酸化炭素排出量を計測する係数を各国にて調査する。
4. 私たちの実践を追跡、共有するため
 - グーグルクラウドの活用(プロジェクトのタイムライン、セミナー実施数など) 記載に必要な項目をスプレッドシートに記入し、各国の参加者に共有し、追記、提案、コメントなど記載可能にする。
 - 報告やスライド、結果などもグーグルクラウドにて共有する。

以上を実践することを、私たち第 5.5 回アジア・ユースサミットの参加者は誓う。

2. 国際体験交流 (スタディツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。2018 年度は、2カ国 46 名が、スタディツアーに参加。

UA ゼンセン宮城県支部フィリピンストリートチルドレン支援スタディツアー(フィリピン)

期 間:2018 年 4 月 12 日～4 月 14 日

場 所:マニラ市サン・アンドレス、カビテ州バリパラン

参加者:7 名

内 容:ストリートチルドレンの教育支援事業視察・支援・交流

フィリピン・スタディツアー(フィリピン)

期 間:2018 年 5 月 7 日～5 月 10 日

場 所:マニラ市サン・アンドレス、カビテ州バリパラン、
リザール州カルドナ等

参加者:3 名

内 容:ストリートチルドレンの教育支援事業視察・交流

インド・教育支援 スタディツアー (インド)

期 間:2018 年 6 月 26 日～7 月 8 日

場 所:カルナータカ州バンガロール県、ビジャヤプーラ県、
マハラシュトラ州ガッチロリ県、ナグプール県など

参加者:5 名

内 容:農村教育・医療支援プロジェクト地の視察
地元の大学生による農村学校への特別授業視察

兵庫県立国際高等学校 フィリピン・スタディツアー(フィリピン)

期 間:2018 年 11 月 2 日～6 日

場 所:マニラ市内/サンアンドレス、カビテ州バリパラン

参加者:23 名(生徒 20 名、先生 2 名、スタッフ 1 名)

内 容:労働移住に関する調査と理解、国際交流

第 15 回フィリピン・パンダン国際親善スタディツアー(フィリピン)

期 間:2019 年 2 月 14 日～2 月 20 日

場 所:マニラ市、アンティーケ州パンダン町、シバロン町等

参加者:8 名

内 容:プロジェクト視察、障がい者支援、国際交流



兵庫県立国際高校のフィリピンスタディツアー(労働移住による日本の移民問題に関して調査を実施)



第28回アジア国際ネットワークセミナーにて、マレーシアのクレアウッド氏によるマレーシアの地球温暖化対策に関する基調講演。



アジア・ユースサミットを卒業し、大学院生となった若者が、インドのパダトラ小学校の少数民族の子どもたちにコンピューターを教えているところ



第28回アジア国際ネットワークセミナーにて、ベナンヒルの自然環境のフィールドスタディ



第5.5回アジア・ユースサミットにおいて「地球温暖化や多様性」についてグランドデザインを作成しているところ



フィリピンのストリートチルドレンの子どもたちとの交流

海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 69団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
1 インド			
1 BSVIA	N. クンバール	カルナータカ州ビジャヤプーラ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	S.サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	J.ザカライヤ	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B.セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	K. デオガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	P. ソラット	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州バネシュワール	災害復興
9 AMS	A.P.ポール	タミルナードゥ州マバルワペタイ	水、貧困対策
10 Don Bosco Ashalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
11 Runa	ピーター・ベロ	ナガランド州コヒマ	水
12 AFS-Nagpur	P. ビシャル	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
13 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
14 AFS-Rural Gacchiroli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
15 AFS-Gadchiroli	P. ソンタッケ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
17 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 AFS-Chhattisgarh	S.H.パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
19 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州ソラプール	子ども、貧困対策
20 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトウル	子ども、貧困対策
21 AFS-Bangalore	カムレ	カルナータカ州バンガロール	子ども、貧困対策
22 IJSDC	ウノ・イクバル	カルナータカ州バンガロール	貧困対策
2 インドネシア			
23 HOSANNA	E.サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
24 AFS-Aceh	サラ・ジュマリア	アチェ州	環境、災害復興
25 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
26 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
3 韓国			
27 公州大学校産業科学大学	ユン・ジュン・サン	忠清南道礼山	国際交流
4 カンボジア			
28 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
5 シンガポール			
29 AFS- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
6 スリランカ			
30 SARVODAYA	A.T.アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

7 タイ

31	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
32	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
33	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
34	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
35	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
36	AFS-Lampang	スラポン・パクディ	ランパン	環境
37	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流

8 中国

38	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
39	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
40	AFS Uighur	ユスフ・エムデオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流

9 ネパール

41	HARD	S.マナダール	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
42	AFS-Nepal(GreenScout Nepal)	ラジャン・M・マツラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境

10 パキスタン

43	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
----	------	-----------	---------	------------

11 バングラデシュ

44	AFS-Bangladesh	S. チョウドリー	チャンドラゴーナ	水、貧困対策
45	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
46	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
47	BDP	アルバート・マラカル	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
48	AFS-BIWM	ムンスール・ラーマン	ダッカ	水、子ども、災害復興

12 フィリピン

49	KALUPI	エロイサ・クナナン	ヌエバエシハ州サンレオナルド	水、貧困対策、環境、災害復興
50	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタラ	アンティーク州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
51	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
52	AFS-Manila	マラガ・アマンテ	マニラ市	国際交流
53	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
54	Asian Social Institute	ミナ・ラミレズ	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
55	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
56	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	アクラン州イバハイ	子ども
57	AFS-South Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーク州サンホセ	子ども
58	AFS-UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
59	AFS-Antique	ジェネロサ・コンデス	アンティーク州	貧困対策、環境
60	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
61	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
62	AFS-Tacloban	ロウエナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興

13 ベトナム

63	VAFS	ルー・バン・ロック	ホーチミン	貧困対策、子ども
64	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策

14	マレーシア			
65	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ベナン	環境、災害復興
15	ミャンマー			
66	MAFS	ヤム・コーパウ	ヤンゴン	水
16	モンゴル			
67	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
17	ラオス			
68	LPRYU	ワンベン・クンポーライ	ビエンチャン	水、子ども
18	アフガニスタン			
69	AAFS	ラハマット	ジャララバード	貧困対策



第 28 回アジア国際ネットワークセミナーに参加した各国の AFS チャプターの人たち

Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

Ⅲ-A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) ネパール中部地震 災害復興支援

AFS-Nepal ネパール中部地震 被災地復興支援

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテンパ村) / メラムチ N.P. 他

2015年4月25日に発生した地震の被災地、被災者に対して、復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指した支援活動を以下の通り実施した。

●生活支援

◇復興家屋建設（住宅再建）

地震により倒壊し、自力再建が出来ない低所得者の人々が安定した生活を早く取り戻すための住宅再建支援を実施。ブロック又はレンガを用いた耐震構造建築。1軒2部屋の全て同じ間取り。4軒の建設を実施し、受益者は安心して安定を目指した暮らしを取り戻せた。累計53棟の支援できた。

◇農業支援

今後の生活復興のために農業の活性化をめざし、地域の特産物となる農作物を試験的に栽培。今年は赤しその栽培を実施し、成長観察を行っている。本支援事業を本格的に実施していくために各集落のリーダーを選出。リーダートレーニング及び方向性を決めるミーティングを実施し、意識の向上を実施。次年度に繋げていく。

◇物資支援（避難袋）

今後の「もしも」に備えて、各世帯に避難袋の配布を開始し、活用方法の学びを開始した。計1000世帯対象とし今年度は100世帯に配布。昨年と併せて計490世帯に配布。来年度も継続して実施していく。

●学校支援

◇校舎の再建

被災により倒壊した校舎を長期的に使用できる再建を4棟行なった。

僻地で支援から取り残されている学校からの支援要請が多く寄せられたがその中でも交通の便が悪く、支援団体が全くない下記の学校に3年間で3棟の実施を行うことにした。本年度2棟目が完成した。

実施校:スリー ゴルメスウォリ ベイシック スクール

所在地:シンドウパルチョーク郡メラムチ N.P. ジャミレ地区

仮設校舎より本建築の必要性が高くなったが、政府よりの支援が見込まれなかったインドラワティ G.P.10 地区の下記の学校に校舎2棟とトイレ1棟の再建を行った。

実施校:スリーチャンデソワリ小中高等学校

所在地:シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区

●飲料水支援

◇水道パイプラインの設置

シンドウパルチョーク郡では地震の影響により水源が枯渇または水位が下がっている。年々水位が下がったり、水量が全体的に少なくなる悪影響が広がっている。そのような状況を回避するために小規模パイプラインの建設を行い、集落に共同水場の設置を行っている。

実施地: I.開発支援事業 1. 井戸・飲料水供給 報告を参照

●大規模揚水システムの設置及び農業基盤づくり事業

インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテンパ村)の水の状況は大変ひどくなる一方で、乾季の水量が最少の時期は緊迫した状況になっている。その状況の根本的な解決に向けて、山の裾を流れる河川から水をポンプアップし、一定量の水を確保するシステムの設置及びその水を活用して農業の基盤づくりより、復興から持続可能な地域づくりをめざした事業を平成30年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業として採択でき3月20日より事業を開始した。今回は単年度支援であるが本事業全体としては3年計画の事業。

(2) 熊本地震被災地支援

JAFS 熊本地震支援

【熊本県上益城郡益城町】

益城町の委託を受けて同町の仮設団地5カ所(小池島田、東無田、惣領、榎島、安永東)の仮設団地の管理を行っていたが、2018年4月早々に別機関の引き継ぎ、委託先が見つかり、無事本会の支援は終了した。

(3) 東日本大震災 災害復興支援

JAFS 東日本大震災災害復興支援

【宮城県石巻市、名取市、女川市、南三陸町】

南三陸・女川を訪れる復興支援スタディツアー

震災から7年が過ぎ復興真っ只中の宮城県において、震災の風化防ぎ、パナソニックグループ労働組合連合会の組合員25名の参加者とともに、被災地を訪れた。復興に向けて名取市の復興住宅地にて藤の木を4本と藤棚を含めた憩いの公園を作った。また石巻市で51本の植樹を行った。石巻市にて慰霊碑と防潮堤の視察、南三陸町では、歌津地区にて本会が支援したみなさん館にて食事と引き続き交流を行った。活動に地元の75人の協力を受けて、このプログラムを実施することができた。

(4) マレーシア、ロヒンギャ難民支援

AFS-Penan ロヒンギャ難民支援

【マレーシア・ペナン州】

ミャンマー、ラカイン州から迫害され、マレーシアのペナン州へと避難し、ペナン州の摩墟アパートで生活を送っているミャンマーロヒンギャ難民約30世帯に対して、米や乾物食品や日用品、子どもたちには文具などの物資の配布及び、子どもたちの教育センターの運営に対しての支援を実施した。本事業は、同州にて開催された第28回アジア国際ネットワークセミナーのフィールド研修とともに実施された。

(5)インドネシア ロンボク地震支援

HOSANNA インドネシア・ロンボク島地震支援

【インドネシア・西ヌサ・トゥンガラ州ロンボク島】

2018年7月28日、マグニチュード6.4により約11,000人もの被災者がでた。物資配布などの支援活動を展開するためにHOSANNAからスタッフを派遣し、被災地の調査と数十世帯を対象とした初動の生活物資の配布を行った。インドネシア政府から国際NGOが携わる支援に制限が設けられた。HOSANNAはその条件に見合わなかったために、大がかりな支援の展開を見送った。



インドネシア ロンボク地震被災地へ現地提携団体のメンバーが緊急支援活動を実施



ネパール復興住宅エリアでの清掃活動



地震の影響で山の水源がなくなり、揚水システム設置に向け、取水エリアを村人と相談するエンジニア



東日本大震災支援として名取市に藤棚と憩いの公園づくりを実施



ロヒンギャ難民の指定住居エリアへの訪問(マレーシア)



支援物資を手にするロヒンギャ難民の子ども

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFSチャリティープログラム

2018年度も、恒例になっている春と秋のJAFSチャリティーバザールをJR住道駅前北側のデッキ広場で開催した。大東市の市報を通じて、参加者を募り、バザールだけでなく、本会の活動を知る機会を作った。秋のバザールではミュージシャンやダンサーがパフォーマンスを披露した。

この他、昨年同様に本会の支援者、8カ国52名の在阪外国人、一般参加者との交流を通じたチャリティーパーティ「第3回アジアン・チャリティーフェスティバル」を開催し、チャリティー募金活動を実施することが出来た。

<春のJAFSチャリティーバザール>

日時:2018年4月20日(振休)10:00~16:00

出展数:30展(31ブース)

ボランティア参加数:20グループ

<秋のJAFSチャリティーバザール>

日時:2018年10月20日(土)10:00~16:00

出展数:41展(45ブース)

ボランティア参加数:18グループ

<第3回アジアン・チャリティー・フェスティバル>

日時:2018年11月24日(土)11:00~20:00

場所:立正校成会 大阪普門館 参加者数:416人

実行委員会 全17回開催

(2) 国際理解教育講座

NGOが学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2018年度もNGO活動を通じた学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。

NGO講師派遣

【のべ9カ所、455名】

- 5月11日 高齢者大学国際文化交流 講義(43名)
「アジアの中の日本 ~NGO活動の意義」
- 5月27日 日本キリスト教団西宮教会婦人部(35名)
「ネパールの教育とアジア里親の会の支援」
- 5月30日 兵庫国際高等学校 国際理解授業(25名)
「アジアの教育事情とJAFSの活動」
- 6月14日 大精教看護専門学校 文化人類学(39名)
「国際理解授業 JAFSの活動と国際協力」
- 6月21日 大精教看護専門学校 特別講義(39名)
「国際理解授業 ウイグル編」
- 6月28日 大精教看護専門学校 特別講義(39名)

「国際理解授業 ネパール編、アジアの医療・保健事情」

- 10月10日 龍谷大学 国際NGO論 特別講師(40名)
「水の問題と保健衛生~ネパールの事例から~」
- 11月9日 京都暁星高等学校 講演(170名)
「JAFSの活動と水を贈る運動、そして国際協力活動の意義」
- 12月19日 近畿大学特別講演(25名)
「JAFSの活動とSDGs」

授業受け入れ

【3校 25名】

- 5月17日 大阪女学院大学院 授業(6名)
「JAFSの活動と南アジアの女性への取り組み」
- 10月30日 関西大学高等部 国際理解授業(5名)
「フィリピンの現状と活動について」
- 12月6日 大手前高等学校 国際理解授業(集中セミナー)
(13名+教員1名)
「NGOの現状と活動/私たちの暮らしと国際支援との相互性」

(3) 国際ボランティア啓発活動

6月9日の総会時にあわせて海外プロジェクト報告会の実施。その他、各地区にて支援事業の報告会などを随時実施。又月1回のぞうすいの会にて報告を実施した。

(4) アジア文化理解講座

一般の人が国際協力を身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。

◆アジア家庭料理教室◆

2018年度はアジア4ヶ国のアジア家庭料理教室を行い、のべ68名の参加を得た。

会場:クレオ大阪西 調理室

- 4月10日 フィリピン 参加16名
講師:ビーナ ジードル氏
- 5月29日 タイ 参加17名
講師:水野ブンルアン氏
- 6月26日 ベトナム 参加21名
講師:ガン氏
- 3月16日 スリランカ 参加14名
講師:バーギャ ウデシカ 樋口氏

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入

今年度は、大阪商業大学のインターンシッププログラムの受け入れ説明会は実施したが、大学を通してのインターンシップの実際の受け入れはなかった。

◆JAFS インターンシップ制度

JAFS の人材育成事業としてのインターンシッププログラムに以下5名が参加し、NGO 活動を学ぶと同時に、JAFS の活動への理解を深める機会とした。

渡真利駿太(大阪大学 大学生) 5月～2019/1月月末
福永真由子(大阪外国語大学 大学生) 5/26～9月月末
梁 詠美(同志社大学 大学生) 7/19～9/13
有田将人(京都大学 大学生) 12/5～2月月末
井ノ上桃花(京都女子大学 大学生) 10/1～12月月末

(6) 法人関連プログラム

本会の長年のアジア現地における支援活動の蓄積と現地のネットワークを生かして、法人を対象に、アジア経済や地域開発の専門家などからのセミナーを行い、人材を育成するプログラム。2018年度は合計3回のセミナーを行なった。

1. 第8回国際貢献型グローバル人材育成支援セミナー

マレーシアに親しむ法人交流会

日時 2018年6月20日(水) 17:00-20:30
会場 ホテルアウイーナ大阪1階 レストランカステロ
主催 JAFS 法人賛助会
共催 大阪国際フォーラム
後援 マレーシア政府観光局 マレーシア投資開発庁
マレーシア貿易開発公社

参加者 38名

内容

- 講話1 マレーシアの概要・文化・観光など全般的な情報
マレーシア政府観光局
大阪支局長 ソレフディン アハマド氏
- 講話2 マレーシアの経済・社会・日本企業の進出状況
マレーシア投資開発庁
大阪事務所長 ユスリ ジャマール氏
- 講話3 マレーシアと日本の貿易事情
マレーシア貿易開発公社
大阪事務所所長補佐 橋詰 裕志氏

2. 第9回国際貢献型グローバル人材育成支援セミナー

日本インドネシア国交樹立60周年記念セミナー

日時 2018年9月10日(水)18:00-21:00
会場 ホテルアウイーナ大阪2階 バーラウンジ ラフィーネ
主催 JAFS 法人賛助会
共催 大阪国際フォーラム
後援 在大阪インドネシア総領事館

参加者 27名

内容

- 講話1 インドネシアにおける企業進出概要とQ&A
アセアン国際公認会計士事務所代表
公認会計士 高垣 靖氏
- 講話2 日本インドネシア国交樹立60周年を迎えて
在大阪インドネシア共和国領事・公使参事官
トゥンパル・フタガルン氏

3. 日本銀行大阪支店山田支店長を囲む会

日時 2019年2月22日(金)18:30-20:30

会場 ホテルアウイーナ大阪2階 バーラウンジ ラフィーネ
主催 JAFS 法人賛助会
参加者 36名
内容 関西経済の最近の動向について
講師 日本銀行理事 大阪支店長 山田 泰弘

*法人賛助会世話人会は、4月、5月、8月、11月に開催した。

(7) JAFS社員クラブ

毎回、ゲストによる様々なテーマの卓話をはじめ、社員相互の交流と親睦の場、そして未会員が気軽に参加できる格好の機会として2018年度は合計4回開催した。

第3弾 JAFS 社員クラブ

日時 2018年4月17日(火) 18:30～20:30
会場 Largo(ラルゴ) 中之島フェスティバルタワー12階
参加者 38名
卓話 漫画家・漫遊書家・講演家 黒田 クロ氏
「見方を変えるとやり方が変わる」～発想の転換～

第4弾 JAFS 社員クラブ

日時 2018年7月9日(月) 18:30～20:30
会場 ホテルアウイーナ大阪1階 レストランカステロ
参加者 44名
卓話 一般社団法人HPC代表理事 宮川 奈緒美氏
「波乱万丈の人生からの気づき」

第5弾 JAFS 社員クラブ

日時 2018年10月29日(月) 18:30～20:30
会場 ホテルアウイーナ大阪1階 レストランカステロ
参加者 40名
卓話 奈良県知事特命参与・前奈良県まちづくり推進局長
金剛 一智氏
「行基さんに学ぶ～天平のカリスマ僧・
土木事業による民衆救済」

第6弾 JAFS 社員クラブ・新年会

日時 2019年1月28日(月) 18:30～20:30
会場 割烹うおまん 中ノ島店(中之島センタービル31階)
参加者 24名
新春講談 旭堂 南照氏
「応挙と幽霊の太夫」

*社員クラブ世話人会は、4月、6月、9月、11月に開催した。

(8) JAFSアジア市民大学

JAFS 創立40周年記念行事の一環として、政治経済はもとより自然・社会・文化などについて多角的に、一味違うアジアを探求する場として、2019年1月に開学した。*実行委員会は、5月、6月、7月、10月、11月、12月、3月に開催した。

2018年12月26日(水)18:00-20:30 官報ビル8階

開学記念講演、懇親会(JAFS 会議室)

特別講話

「アジアの社会(福祉)から学ぶもの

-現代日本の社会問題を読み解く視点-

講師: 日越大学教授・JICA 専門家 桂 良太郎氏

参加者 30名

2019年1月12日(土)14:00-16:00 官報ビル8階
第1回「アジア総論」大戦後のアジア経済の潮流
講師:東亜大学 人間科学部 特任教授 西澤 信善氏
参加者:25名

2019年2月9日(土)14:00-16:00 官報ビル8階
第2回「中国を視る」—都市—
講師:元奈良大学学長 石原 潤氏
参加者:24名

2019年3月9日(土)14:00-16:00 官報ビル8階
第3回:「アジアの潮流」—ミャンマー経済の変遷
講師:東亜大学 人間科学部 特任教授 西澤 信善氏
参加:28名

(9) 関連プログラム/その他団体協力

◆(特活)関西 NGO 協議会

加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席、協力活動を行った。特に、副代表理事として常任理事会に関わり、調整業務も協力を行っている。

理事会/常任理事会 基本2か月毎の出席

KANSAI SDGs 市民アジェンダの事務局の役割として、分科会を実施し、関西地域においてSDGsの普及推進に協力。

CS ネットワークフォーラム参加

同時に以下の2項目に関しても関西 NGO 協議会の役割を担っている。

- ① NGO-外務省連携推進委員:関西の NGO と外務省の窓口の役目を担うと同時に東京での会議に出席。
- ② 関西 SDGsプラットフォーム運営委員
- ③ ワンワールドフェスティバル for Youth の運営委員

◆(特活)関西国際交流団体協議会

1) 加盟し、監事として協力活動を行っている。

理事会参加/総会参加

2) ワン・ワールドフェスティバル:

第26回ワン・ワールドフェスティバルに実行委員会の一員として、また活動紹介展示、民族料理屋台にて参加協力した。

期 間:2019年2月2日(土)、3日(日)

場 所:北区民センター、扇町公園

来場者:25,000名(2日間のべ人数)

主 催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

参加内容:NGO 活動紹介ブースにて来場者を対象に活動紹介と各種ボランティア募集の告知とアジアグッズの販売、民族料理屋台ブースでアジア料理の出展協力を行った。

◆公益財団法人大阪府国際交流財団

評議員として評議員会出席。協力活動を行っている。

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議(KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)

正会員として加盟し、協力活動を行っている。国際協力をより身近なものに感じるとともに、国際協力の現状・必要性などについての理解と認識を深めることを目的としたイベントの「グローバルフェスタ 2018」には、JAFS 関東がチャリティ参加した。その他、

JANIC説明会(次期3か年計画案と会員規程案)及び意見交換会(1/18)に出席。他、下記のイベントに出席

1月18日 新しい“国際協力”を考える ～グローバルな社会課題解決アクターが出会い、学び、発見する1日～ に参加

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。2018 度は助成申請を行わなかったが、熊本地震事業報告に関する最終報告作業を行った。

◆近畿労働金庫 地域共生推進室

2019年2月のワン・ワールドフェスティバル内の近畿労働金庫主催プログラムに協力出演した。

◆一般財団法人 H2O サンタ

2019年2月16日 土曜日サンタ チャリティトークイベントに参加。募金は、本会の井戸建設事業へと充てられた。

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

- | | |
|---------|-----------------------|
| 第1エリア: | 大阪府北部、兵庫県東北部 |
| 第2エリア: | 大阪府東部 |
| 第3エリア: | 大阪市内 |
| 第4エリア: | 大阪府東南部 |
| 第5エリア: | 京都府、滋賀県 |
| 第6エリア: | 兵庫県(一部大阪近辺を除く) |
| 第7エリア: | 奈良県、東大阪市、八尾市、和歌山県、三重県 |
| 第8エリア: | 大阪府西南部 |
| 第9エリア: | 西日本 |
| 第10エリア: | 東日本 |
| 第11エリア: | 東海、北陸・甲信越等 |

(1) 会員拡大・地区活動推進委員会

2018 年度は、昨年に引き続き地域の役員(地区世話人)を中心に、会員拡大・地区活動推進委員会を開き活動を進めていった。地区活動においては新たに「アジア友の会」の設立を推進した。

◆会員拡大地域活動推進委員会 計4回 のべ42名が参加

定例会:5月26日、6月26日、11月1日、

2019年2月20日

◆「アジア友の会」設立準備地区

7月 奈良市アジア友の会、2019年2月 松原アジア友の会

◆地区世話人・活動協力スタッフ研修会

9月29日(土)13:00-20:00 大阪国際ユースホテル

講師:全国 PHP 友の会関西エリア副本部長 高木 孝一氏
「会員拡大の秘訣」

参加者:20名

◆新入会員ウエルカムパーティー:

8月25日(土)11名、3月9日(土)26名

(2) 地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	天野澄子、黒谷侑子、竹内泰子
	池田	石原基義、勘山 悟、近藤秀子、近藤允伸
	吹田	江守 猛、杉原 貴、中西武雄
	高槻	佐々寿子、西川龍夫、榊田敏弘、川上礼子
	豊中	大谷利恵子
	箕面	平瀬勢丈
2	門真	友松千草
	四條畷	青木洋介、小柳二郎
	寝屋川	笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ
	枚方	明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、虫明慧悟、吉田幸子
	守口	真田朱美、二野英子
3	なにわ東	稲垣三千穂、奥 眞里子、毛利 吉男、濱崎佳尚
	なにわ西	風早正夫、落合朋子、喜多富美、篠塚達朗、福岡好嗣
	なにわ南	中西豊次、實 清隆、巽 正憲、岡本望
	なにわ北	豊田祥二
4	河内長野	今井利子、白井春夫、新谷百代、丸井和子
	藤井寺	森 わか子
	松原	橋本末子、六車勝三
	美原	田中千鶴子、中嶋啓子
	羽曳野	サルマ クルシュナ
	大阪狭山	藤間孝子
	河南町	橋本洋一
	富田林	沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦
5	宇治	櫻屋敷寛子、杉林則子、田中紀代三
	京都市	辻 賢二、菅 洋子、高田晃宏、大本和子、金井英夫、福井えり、柳井一郎
	野洲	深田陽一
	八幡	福川 肅
6	三田	芝野照久、堀 正之
	西宮	岡田 昂、小谷牧子、斎藤公江、平山隆史
	神戸	鈴木誠也
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
	芦屋	岩崎準一
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	有山加代子、近藤眞知子、山田穂積
	奈良市	サマン ペレラ、東久保勝彦 福岡名津子、渡邊瑠璃子、野口明英
	東大阪	坂上やよひ、末永雅典、南野紀美子
	八尾	日下千代子、橋本隆
	田辺	小森茂之
	新宮	瀧野秀二、中西 洋
8	高石	佐藤満昭
	堺	幾谷眞規子、久保幸子、山本征八郎
9	広島	宇田和博
10	東京	川崎隆二、長谷川雅子

11	愛知	壁谷桂子、清水三千夫
----	----	------------

(3) 第1エリア

【尼崎】天野澄子、竹内泰子、黒谷侑子【池田】石原基義、勘山悟、近藤秀子、近藤允伸【吹田】中西武雄、杉原貴、江守猛【高槻】西川龍夫、榊田敏弘、佐々寿子、川上礼子【箕面】平瀬勢丈【豊中】大谷利恵子

5月5日 中山寺子供フェスティバル参加
場所:宝塚中山寺 参加24名

7月8日 豊中七夕まつり参加
場所:豊中駅前 参加14名

11月24日第3回アジアンチャリティフェスティバル参加
場所:立正佼成会大阪普門会館 参加5名

2019年 第1エリア新年会開催

1月19日 場所:霊松寺 参加47名

●地区会開催

豊中地区・池田地区・吹田地区合同参加

4月8日 吹田ウォーカーソン 森を歩こう!万博記念公園自然観察会(17) 場所:万博記念公園

4月30日 JAFSチャリティバザー出展参加(6)
場所:JR住道駅前

5月5日 中山寺子供フェスティバル参加
場所:宝塚中山寺 参加5名

11月24日第3回アジアンチャリティフェスティバル参加(10)
場所:立正佼成会 大阪普門館

池田地区

4月14日 定例会もつとつと知りたいアジア「中国編」
～1994年以来中国との交流～

お話:勘山 悟さん
参加7名 場所:池田中央公民館

6月16日 定例会もつとつとアジアを知ろう「フィリピン編」
～生活力とは何だ!フィリピンスタディツアーに参加して～

お話:杉本 牧子さん
参加7名 場所:池田中央公民館

吹田地区ではウォーカーソン参加。吹田ぐるぐるプラザフリーマーケットに参加した。インドの養鶏プロジェクトを支援する。

高槻・島本地区にて【JAFS 高槻】

今年度は、以下の行事を、貧困に苦しむアジアの子どもの教育支援に充てる費用を得るために実施した。

2018年

6月2日(土)18:00-20:30 「初夏の蛸鑑賞と美人の湯の夕べ」
高槻市摂津峡 美人湯祥風苑

参加23名

7月25日(水)14:30-17:00 第3回 Home Party
(ネパールの歌姫による音楽&チャイ・デザート)

ネパールレストラン・タージマハルエベレスト高槻店にて
参加23名

10月7日(日) 第14回高槻NPO 協働プラザにてパネル展示
11月11日(日)14:00-16:00

「秋の摂津峡アコーステックコンサート」

高槻市摂津峡の芸術サロン「摂津響 Saal」にて
ピアノ・クラリネット&アコーディオンのDuo

参加 38 名

2019 年

1 月 19 日(土)12:00-15:00JAFS 新年会
高槻 霊松寺にての最後の開催。
JAFS の活動報告&アトラクション
参加 45 名(インドからの来客 1 名含む)
<定例会>毎月第 1 月曜日(13:30~15:00)計 11 回開催
場所:高槻市交流センター クロスパル

(4) 第 2 エリア

【第 2 エリア合同】

<“JAFS 北河内 緑とふれあう会”>

会長:笠谷正博

4 月 14 日 夏野菜を植えるための畝作り、玉ねぎ畝の草取り他 参加者:12+2(子ども)人

4 月 28 日 ジャがいもの芽かき、トマト・ゴーヤ・ツルムラサキ等の植え付け他
参加者:9+2 人

5 月 12 日 ほうれん草・インゲン豆の種まき、玉ねぎ畝の草取り、その他
参加者:9+1 人

5 月 26 日 玉ねぎの収穫他 参加者:11+1 人

5 月 31 日 【御殿山神社紫陽花の下草刈り】

6 月 9 日 ジャがいもの収穫、さつまいも苗の植え付け他
参加者:10+1 人

6 月 16 日 【御殿山紫陽花まつり】

6 月 23 日 ほうれん草・三度豆・紫蘇の収穫、草取り他
熱田さんから JAFS ネパール農業支援プロジェクトの説明 参加者:7 人

7 月 14 日 さつまいも畝の草とり、トマト・ツルムラサキ等の収穫 参加者:9+1 人

7 月 28 日 さつまいも畝の草取り、みかん・紫陽花の剪定、トマト等の収穫他 参加 8+1 人

8 月 11 日 8/11 トマト・ツルムラサキ等の収穫、草取り他
参加者:9 人

8 月 25 日 草取り他 参加者:8 人

9 月 8 日 作業 雨天中止

9 月 22 日 大根用畝作り、ゴーヤ・ツルムラサキ・三度豆等の収穫他 参加者:3 人

9 月 28 日 大根の種まき他 参加者:5 人

10 月 23 日 夏野菜の整理、草取り、三度豆・ツルムラサキ・ゴーヤ等の収穫他 参加者:10+1 人

10 月 27 日 「収穫祭」さつまいも・枝豆・かぼちゃ等の収穫、畝作り他 参加者:11+4 人

11 月 10 日 みかん狩り、大根畝の草取り 参加者:7 人

11 月 11 日 玉ねぎの植え付け他 参加者:7 人

11 月 16 日 みかんの収穫 参加者:2 人

11 月 24 日 みかん・キクイモ・ツルムラサキ等の収穫、畝の整理、草取り他 参加者:6 人

12 月 15 日 大根・キクイモの収穫、玉ねぎ畝の草取り、その他 参加者:9 人+1 人

12 月 24 日 シークワーサー・大根・キクイモの収穫、玉ねぎの追肥、農園の片付け 参加者:11 人

1 月 12 日 大根の収穫、玉ねぎ畝の草取り他
参加者:9+1 人

1 月 26 日 みかんの寒肥入れ、ハウス内枯れ枝の処理、大根の収穫他 参加者:7 人

2 月 9 日 里芋の植え付け、チューリップの植え付け、大根の収穫、畝作り 参加者:9 人

2 月 23 日 玉ねぎ畝の草取り、土作り 参加者:8 人

3 月 9 日 ジャがいもの植え付け、玉ねぎ畝の草取り他
参加者:10+1 人

3 月 11 日 【御殿山神社紫陽花の寒肥入れ】 参加者:3 人

3 月 23 日 総会
場所:南部生涯学習市民センター
参加者:7 人

※定例農園作業を第 2・第 4 土曜日 3~5 月 8:00~11:00、6~9 月 7:00~10:00、10~11 月 8:00~10:00、12~2 月 9:00~12:00 に実施。天候・作物の状態・JAFS 及び地区活動の関係等でやむを得ない場合変更あり。また臨時作業日もあり。

※有志による農園周辺の草刈り、生け垣の剪定、散水設備の修理・新規設置、門扉の修理等多くの作業が随時実施。

※ブログ <https://blog.goo.ne.jp/midori-hureai>(または「JAFS 北河内 緑とふれあう会」)にて活動を広報。

【守口】真田朱美、二野英子

2018 年 桜まつり チャリティ参加

4 月 7 日 (土)

5 月 12 日 (土) だんじり祭り チャリティ参加

13 日 (日) だんじり祭り チャリティ参加

5 月 26 日 (土) 橋波商店街 100 円市 チャリティ参加

6 月 6 日 (水) 定例会

7 月 5 日 (水) 定例会

7 月 28 日 (土) 橋波商店街 夜市チャリティ参加

8 月 4 日 (土) JAFS 守口 親睦旅行

~5 日 (日)

9 月 5 日 (水) 定例会

9 月 23 日 (祝) 橋波商店街 FM チャリティ参加

10 月 8 日 (日) 橋波商店街 FM チャリティ参加

10 月 28 日 (土) 橋波商店街 100 円市チャリティ参加

11 月 3 日 (土) 市民祭 チャリティ参加

~4 日 (日)

11 月 17 日(土) ダンスの力 チャリティ参加

11 月 24 日(土) 多文化共生祭チャリティ参加

12 月 23 日(日) JAFS 守口 忘年会
橋波商店街チャリティ参加

2019 年

1 月 6 日(水) JAFS 守口 餅つき&新年会

1 月 27 日(日) 商工会議所 第 9 回大商業祭チャリティ参加

2 月 3 日(日) 高瀬神社 節分祭 チャリティ参加

3 月 6 日(水) 定例会

3 月 11 日(日) 橋波商店街 FM 出店

【枚方】明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫

7 月 8 日(日) 第 13 回枚方ティーサロン お話&「二胡」ミニコンサート
場所:楽寿荘(枚方市立老人福祉センター)多目的ホール
参加者 47 名
お話:「アジアへの支援、ボランティア活動を続けて」平原栄子さん
二胡演奏:清水久恵さん、泉田尚子さん

8 月 25 日(土)~26 枚方まつり 模擬店チャリティ参加
日(日) 場所:枚方市駅前岡東中央公園

9 月 9 日(日) ひらかた NPO フェスタ 2018

- 展示・チャリティ物品販売で参加
場所:枚方市駅前岡東中央公園
- 11月4日(日) JAFS 枚方・寝屋川合同企画
「穂谷川ウォーカーソン」
参加者:23名
コース:京阪牧野駅前→牧野公園→九頭神社跡遺跡→穂谷川遊歩道→府立山田池公園→旧田中家鋳物民族資料館
- 12月8日(土) 寝屋川多文化フェスティバル(協力参加)
場所:寝屋川市民会館
- 2月17日(日) ハッピーバルーンフェスティバル (協力参加)
場所:寝屋川市立第五中学校
- 3月31日(日) 第14回枚方ティーサロン
「フィリピン支援報告」
場所:サンプラザ生涯学習市民センター第3集会室
参加者:19名
お話:天野澄子、小柳二郎
- ※地区世話人会 4/15、5/21、6/25、7/30、8/15、9/19、1/22

【寝屋川】 笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、
畠山ひろみ

- 4月6日 第2エリア花見の会
場所:枚方・楽寿荘
- 4月22日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
- 5月21日 ソロプチミストコンサート・チャリティ参加
場所:守口アゴーラホテル
- 6月24日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
- 8月5日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
- 8月25日 枚方まつり・チャリティ模擬店応援参加
場所:枚方市岡東中央公園
- 9月23日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
- 10月7日 市民活動センターふれあいフェスタ 展示・
チャリティ模擬店参加
場所:市民会館
- 10月21日 ぞうすいの会ティーサロン
場所:ふらっとねやがわ
第1部「私が体感したネパールでの日々」
報告:溝口竜太郎さん。
第2部HIROさんのマジック教室。
参加者:18名
- 11月4日 枚方・寝屋川地区合同ウォーカーソン
場所:枚方市山田池公園
- 11月10日 ふらっとねやがわまつり 展示参加
場所:ふらっと寝屋川
- 11月18日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
- 12月8日 第9回ねやがわ多文化フェスタ チャリティ模擬店
場所:アルカスホール
- 1月27日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
- 2月17日 ハッピーバルーンフェスティバル チャリティ模擬店
場所:寝屋川市立第五中

- 3月24日 寝屋川地区会例会(世話人会)
場所:市民活動センター
以上の活動によりネパールへバイオガス2基を寄贈。

(5) 第3エリア

【大阪市なにわ西】 齋藤かおる 沖本然生 沖本加代子 新羅和子 伊藤 勝 澤野真樹 篠塚達朗 風早茂都子 風早正夫

- 4月8日 まいど!大阪おもしろツアー 春爛漫に舞う桜、蕪村生まれし毛馬を歩く
場所:淀川、毛馬界限
参加者:35名 案内人含む
- 4月26日 なにわ西例会 JAFS 事務所会議室
- 5月20日 関西ほのぼのツアー 新撰組が竜馬が走った! 酒蔵の伏見をゆく
場所:京都伏見界限
参加者:16名 案内人含む
- 5月25日 なにわ西例会 JAFS 事務所会議室
- 6月16日 まいど!大阪おもしろツアー大川沿いに浪速八百八橋を巡って大阪の歴史を想う
場所:大阪淀屋橋界限
参加者:31名 案内人含む
- 6月29日 なにわ西例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:6名
- 7月14日 なにわ西地区例会(はも鍋パーティ)
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:16名
- 7月27日 なにわ西地区例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:6名
- 8月25日 なにわ西例会 場所:アパホテル肥後橋駅前屋上 ベトナムレストラン 参加者:8名
- 9月15日 まいど!大阪おもしろツアー蜷川今昔物語ウォーク
場所:JR 福島駅から北新地、蜷川旧跡等を巡る。参加者:39人 案内人含む
- 10月25日 なにわ西地区例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:7名
- 11月17日 なにわ西例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:7名
- 11月29日 なにわ西例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:6名
- 12月8日 まいど!大阪おもしろツアー時代を先駆けした先賢者達の江戸堀、京町堀を歩く
場所:肥後橋から江戸堀、京町堀周辺を巡る 参加者:21人案内人含む
- 12月20日 なにわ西地区例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:7名
- ★12月21日 ★JAFSへ寄付金納付 インド里親2名及びインド女性自立支援 計140000円
- 2019年 なにわ西地区例会
- 1月30日 場所:JAFS 事務所会議室 参加者:5名
- 2月15日 なにわ西地区例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:5名
- 3月22日 なにわ西地区例会
場所:JAFS 事務所会議室 参加者:5名

【大阪市なにわ南】 中西豊次、出口貴之、實清隆

- 4月28日 デザイン寿司+創作料理
場所:阿倍野区民センター調理室
参加12名

10月13日 加賀屋新田～高灯籠ウォーク 参加13名
子ども2名
場所:住之江加賀屋新田
JAFS なにわ南地区役員会年度内に4回

(6) 第4エリア

【河内長野・大阪狭山市】白井春夫、今井利子、新谷百代、丸井和子

4月23日 第2回河内長野アジア友の会月例会
スティファブティ氏のインドネシアについて
参加者14名
場所:ノバティ会議室

5月28日 第3回河内長野アジア友の会月例会
杉本牧子氏によるフィリピン村について
参加者7名
場所:ノバティ会議室

6月25日 第4回河内長野アジア友の会月例会 張氏による中国事情
参加者8名
場所:ノバティ会議室

7月23日 第5回河内長野アジア友の会月例会
新谷百代氏によるインド舞踊に魅せられて
参加者28名
場所:ノバティ会議室

8月27日 第6回河内長野アジア友の会月例会 吉村常妙住職による講話 参加者11名
場所:ノバティ会議室

9月24日 第7回河内長野アジア友の会月例会 シュミ氏によるバングラデシュ事情
参加者10名
場所:ノバティ会議室

10月22日 第8回河内長野アジア友の会月例会
井戸清明氏による詩吟とともに
参加者14名
場所:ノバティ会議室

11月26日 第9回河内長野アジア友の会月例会 辻秀和氏による墓じまいについて。参加者8名
場所:ノバティ会議室

1月28日 第10回河内長野アジア友の会月例会
辻秀和氏による墓じまいについて。
参加者6名 場所:ノバティ会議室

2月24日 ボランティア・市民活動フェスティバル出展
場所:河内長野キックス

【南河内・松原地区】橋本末子、谷岡康男

2018年

9月8日 会議:JAFS松原 年間計画&イベント打ち合わせ
場所:インド料理店ブジャ 参加者:16名

10月14日 イベント:異文化交流パーティ in 松原「びっくり!内モンゴルの“いま”」
～変わりゆく人々のくらしと変わらぬ誇り～
場所:松原市立総合福祉会館 3階 会議室
参加者:46名

11月4日 イベント:第23回松原第三中学校区ヒューマンタウンフェスタ
1年生と協働でネパール里子支援「フレンドサポート」

場所:松原第三中学校 参加者:25名

11月4日 イベント:松原第四中学校区フェスタ
JAFSパネル展示、三宅小学校児童会活動(ネパール支援)
場所:松原第四中学校

11月14日 会議:異文化交流会 in 松原打ち合わせ
参加者:5名 場所:橋本ハウス

11月18日 イベント:松原第六中学校区フェスタ
JAFSパネル展示、水瓶で水運び体験
モンゴル他、民族衣装着付け体験
場所:松原第六中学校
参加者:第六中学校ユニバーサルルーム(ネパール支援)

12月7日 会議:異文化交流会 in 松原「振り返りと次回ゲストと打ち合わせ」
場所:インド料理店ブジャ 参加者:10名

12月15日 パネル展:松原市ボランティアまつり
場所:松原ゆめニティ

2019年

1月27日 イベント:異文化交流 in 松原 ～びっくり!つながるアジア～
「フィリピンの文化・くらし・子どもたち」
参加者:53名

2月14日 イベント:大阪府市町村ボランティア連絡会
河南ブロック交流会 in 松原「交流・居場所づくり」 JAFS 松原活動紹介
場所:ゆめニティまつばら3階多目的ホール
参加者:63名

2月19日 会議 JAFS 松原 新組織立ち上げ
場所 橋本ハウス
参加者:3名

3月27日 会議:JAFS 松原 活動趣旨・目的・活動内容の検討
場所:橋本ハウス 参加者:4名

★3月11日 2018年度 JAFS 海外プロジェクト寄付90,000円
ネパールバイオガスパラント 3基

★広報活動(JAFS松原ブログでイベント告知、活動報告を掲載)

【富田林】沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦

2018年

6月30日 富田林地区役員会 バーベキュー企画打合せ
参加4名
場所:富田林駅前喫茶店

7月7日 富田林地区会 バーベキュー(雨でテニス中止)
参加14名
場所:沖田哲男会員宅

9月9日 富田林地区役員会 狭山池企画の打合せ
参加4名
場所:沖田哲男会員宅、狭山池下見

10月13日 富田林地区 狭山池散策と博物館見学
参加7名
場所:狭山池、狭山池博物館

(7) 第5エリア

【京都・宇治・野洲・八幡】菅洋子、高田晃宏、辻賢二、大本和子、金井英夫、福井えり、柳井一郎、櫻屋敷寛子、杉林則子、田中紀

代三、深田陽一、福川肅

- 4月23日 京都地区会 場所:洛南教会
4月30日 JAFS チャリティバザール
場所:住道駅前デッキ
5月26日 京都フリーマーケット参加
場所:岡崎公園
5月7日 フィリピン・スタディーツアー
～10日 場所:フィリピン
6月16日 アジアについて知る勉強会
『フィリピンストリートチルドレンスタディーツアー
に参加して』
ゲスト:杉本牧子氏 場所:洛南教会
7月14日 京都チャリティミニコンサート
『宵々山の夕べ
オカリナと祇園祭のコントラスト』
場所:バザールカフェ
7月28日 第33回箕面まつり参加
29日 場所:箕面市 → 台風のため中止
8月25,26日 夏のイベント協力
9月1,17日 場所:泉大津
9月3日 京都地区例会 場所:洛南教会
9月27日 アジアについて知る勉強会
『インドスタディーツアーに参加して』
ゲスト:高田晃宏氏 場所:洛南教会
10月6日 京都フリーマーケット参加
場所:梅小路公園
11月6日 京都地区会 場所:洛南教会
10月20日 JAFS チャリティバザール
場所:住道駅前デッキ
11月24日 アジアンチャリティフェスティバル参加
場所:立正佼成会
12月8日 バザールカフェフェスタ参加
場所:バザールカフェ
2019年 京都地区例会&新年会
1月26日 場所:洛西教会
2月22日 京都地区例会 場所:洛南教会
3月2日 世界の竹中真 チャリティピアノコンサート
場所:新島会館
3月15日 京都地区例会 場所:洛南教会

(8) 第6エリア

【西宮】岡田昂、平山隆史

- 4月28日 活動パネル展示とバザー参加
場所:西宮中央教会 ふれあいマーケット
2019年
3月9日 西宮国際交流デーに参加
活動パネル展示
場所:西宮フレンテ

【芦屋・神戸】鈴木誠也、岩崎進一、戸田恭子、田尻尚之

- 4月14日 春咲縁日に参加
JAFS チャリティバザー
場所:芦屋 木口記念会館
10月13日 秋空縁日に参加
JAFS チャリティバザー
場所:芦屋 木口記念会館

【姫路】森 梢、荒川鉄也、中尾和子

- 2019年
3月10日 姫路スプリングフェスティバル出展(7)
場所:姫路

(9) 第7エリア

【奈良・生駒・東大阪市・八尾市・新宮市】高以良泰治、渡邊瑠璃子、サマンペレラ、東久保勝彦、福岡名津子、山田穂積、有山加代子、近藤真知子、林昭宏、末永雅典、坂上やよひ、南野紀美子、日下千代子、橋本隆、龍野秀二、中西洋

- 2018年 第4回チャリティライブ生駒 実行委員会①
5月1日 参加 8名
場所:生駒市コミュニティセンター
6月1日 BBQ とはたるを愛でる会
参加 15名
場所:生駒市高山町
7月31日 第4回チャリティライブ生駒 実行委員会②
参加 6名
場所:生駒市コミュニティセンター
7月31日 第7エリア生駒地区例会 参加4名
場所:生駒市コミュニティセンター
8月4日 生駒どんどこ祭り パネル展示&出店
参加13名
場所:生駒健民グラウンド
12月14日 第4回チャリティライブ生駒 実行委員会③
参加 6名
場所:生駒市コミュニティセンター
2019年 第4回チャリティライブ生駒 実行委員会④
1月10日 参加 8名
場所:生駒市コミュニティセンター
1月27日 第4回チャリティライブ生駒 出演者打合せ
参加 4名
場所:生駒市コミュニティセンターI
1月30日 第4回チャリティライブ生駒 実行委員会⑤
参加 9名
場所:生駒市コミュニティセンター
2月11日 お竹送りウォーク&ぞうすいの会
参加 8名
場所:東大寺・2月堂&今小路自治会館
2月14日 第4回チャリティライブ生駒 実行委員会⑥
参加 10名
場所:生駒市コミュニティセンター
生駒市ららぽーとまつり 出展&出店
参加 6名
生駒市北コミュニティセンター はばたき
3月3日 第4回チャリティライブ生駒 入場者 305名
場所:生駒市コミュニティセンター
3月18日 第4回チャリティライブ生駒 実行委員会⑦
反省会 参加 10名
場所:山田穂積会員宅
毎週金曜日 アイビー歌声サロン
場所:生駒たけまるホール

(10) 第8エリア

- 【堺市・高石市・田辺市】幾谷真規子、久保幸子、佐藤満昭
7月16日(祝) 高石地区

第10回サマーギターチャリティコンサート
 参加 200名
 場所:堺市北野田

2019年
 1月1日 家原寺 新年街頭募金活動
 ~2日 場所:家原寺

1月9日 第20回新春チャリティ小品展支援
 ~30日 ネパール井戸建設他2項目支援
 場所ギャラリーいろはに

(11) 第9、10エリア

【関東活動委員会(首都圏)】石田雅昭、岩田芳晴、川崎隆二、小島学、高岸泰子、森山涼子、原京、端無勝、佐藤理香、武田明沙香、河合典子、山本隆、長谷川雅子、田中壽美子

湯川副会長のご好意によりキャビネットビルをお借りし、活動委員会を行ってきた。

～私達の取り組み～パダトラ小学校の子どもたちの就学支援～
 インド山岳地帯で暮らすアディヴァシと呼ばれる先住民たちは、身分制度としてのカースト外の更に下層に位置付けられ、永く社会において差別されてきた。こうした境遇の子どもたちが、学校で学び、将来は職を得て自立できるように、現地のNGOとJAFSが協力して、日印友好学園「パダトラ小学校」が設立された。先住民族の子ども70人が学んでいる。

JAFS 関東はアジア里親の会を通じて、継続した支援を行なう。プロジェクト支援のためにイベントを通じた資金集めを行うとともに、JAFSの広報や会員親睦なども積極的に行った。また、インドのガオコール問題についても話し合いを行ってきた。

5月26日 銀座ウォーカーソン 11名
 6月8日 活動委員会 7名
 於:JAFS 関東会員広場@銀座
 年間プログラムについて
 ①支援プロジェクトの確認バルサカレ氏プロジェクトについて
 ②コンサート
 ③グローバルフェスタ
 ④横浜フェスタ
 7月24日 ⑤その他
 活動委員田中、インド報告書提出
 パダトラ小学校にての状況視察
 8月3日 ガオコール現場の視察
 チェロコンサート
 クラウスディータプラント氏
 於:日本キリスト教団久我山教会
 9月8日 45名
 グローバルフェスタ最終打ち合わせ会議
 9月29日 場所:JAFS 関東会員ひろば@銀座
 グローバルフェスタ参加
 場所:お台場・センタープロムナード公園
 今年は展示場所と飲食場所が一つのテントになり、良い条件だったが、9/29,30の予定が台風接近のため29日午後4時までとなった。雨の中、食事の席を設けたことにより材料費の赤字解消に繋がった。
 横浜フェスタ見学(2名)
 10月6日 2098年度の横浜フェスタ参加検討のための
 11月18日 昨年に続き視察。我々の条件と合わず出席

することは断念した。
 ぞうすいの会
 村上公彦 JAFS 事務局長
 於:於:日本キリスト教団久我山教会
 26名

2019年
 1月19日 JAFS 関東新年会 11名
 他活動委員会開催は6回

●広報活動報告

JAFS 関東ブログを管理運営。イベント告知や活動状況を発信。
 JAFS Facebook ページに、年間を通じ随時活動状況を発信。
 Facebook での交流の場「JAFS 活動連絡室」を運営。

3. 広報

(1) アジアネット

アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年4回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付するとともに、新たに本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペースに向けても送付した。また日本在住の外国人向け、およびアジアを始め海外の人向けに、アジアネット各号について、ヘッドラインと写真を中心に英訳した英語版を作成した。英訳にはカンボジア王国名誉領事館 木下館長に協力いただき、英語版をホームページにて公開するとともに、フェイスブックにて国内外に発信した。

《アジアネット発行実績:

134・137号 5,500部、135・136号 4,500部》

◆134号 (2018年7月号)

- 表紙写真 マレーシアのロヒンギャ難民
- 巻頭言 教育の平等こそ世界平和への道
- 特集 マレーシアのロヒンギャ難民
- 海外からの報告 スリランカ 内戦後の貧困と取り組む
- ネパールの環境事業評価
- 学校ができた村
- 井戸寄贈報告
- 2017年度の活動報告 / 2018年度の実施予定
 貧困対策、環境、水、子ども、国際交流、罹災者支援、
 サイクル・エイド、国内での普及啓発
- 2018年度 社員総会報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 環境コラム、編集後記

◆135号 (2018年10月号)

- 表紙写真 訪問客を村に迎えるインドのヒンズー教儀式
- 巻頭言 アジア・太平洋にファンを増やせ
- 特集 自立への道歩むインドを訪ねる
- 海外からの報告 フィリピン マングローブ植林
- フィリピンで植林 10万本を達成
- インドネシアの島の植林活動
- サイクル・エイドで生活・環境を改善
- ロンボク島地震へ救援・支援を
- 熊本地震支援を終えるにあたって
- 井戸寄贈報告

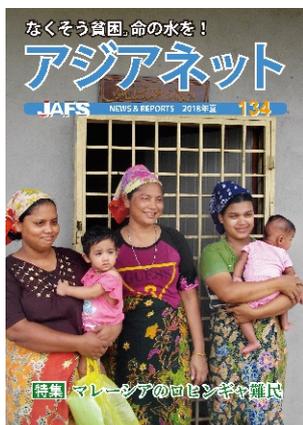
- 親から子らへ「土水」35周年
- 映画「セカミズ」撮影進む
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 環境コラム、編集後記

◆136号 (2019年1月号)

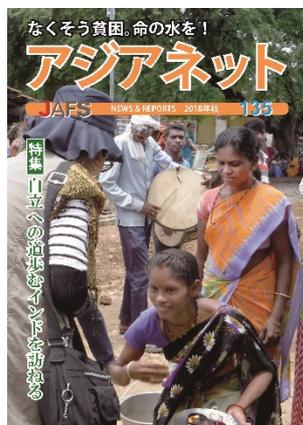
- 表紙写真 豪雨被害で壊れた家の屋根を、瓦リレーで協力して修理するインドの村人たち
- 巻頭言 労働組合運動と社会貢献活動
- 特集 「気候変動と貧困」セミナーから
- 理系大学生のネパール初研修記
- 京都暁星高校が水道ワークキャンプ
- JAFS40周年を前に ①水支援は今...
- 海外からの報告 フィリピンで学ぶインド人奨学生
- アジア市民大学 1月開講
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 里子の笑顔、アジアの友から
- 環境コラム、編集後記

◆137号 (2019年4月号)

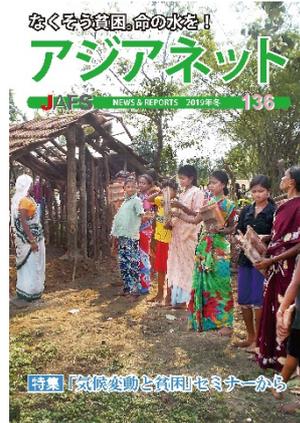
- 表紙写真 パンダン水道のパイプラインが2本に増設
- 巻頭言 着眼大局 着手小局
- 特集 パンダン水道の20年後を訪ねる
- ネパール スタディツアー、環境プログラム
- インドネシア植林キャンプ体験記
- JAFS40周年を前に ①環境支援は今...
- 井戸寄贈報告
- タイに広がる自転車・車椅子活用の輪
- 新・The 社会貢献 法人紹介
- JAFS プラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- アジアの友から
- JAFS40周年記念事業のお知らせ
- 環境コラム、編集後記



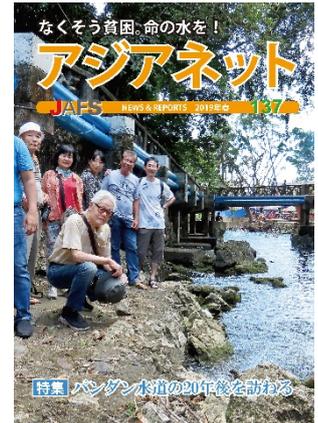
第134号



第135号



第136号



第137号

(2) ホームページ/フェイスブック

本会のイベント情報やニュースなどを随時更新し発信した。
 <ホームページ> <https://jafs.or.jp>
 <フェイスブック> <https://www.facebook.com/JAFS.NGO>

4. プロジェクト支援 (ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(山崎桃、風早茂都子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。毎月1回(年間11回※8月休み)開催で、アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

4月10日	362回「テーブルクロスによるネパール給食支援」古川麻衣 参加14名
5月8日	363回「多文化共生・異文化交流について」ディアバリ・アンディカ 参加18名
6月12日	364回「フィリピン・マングローブ植林10万本達成」ジーナ・ヤップ 参加23名
7月10日	365回「私とバングラデシュ」フェルドウッシュ ジャンナトウル 参加17名
9月11日	366回「土と水と緑の学校報告」山竹継男 参加14名
11月13日	367回「第28回ネットワークセミナー報告」柿島裕 参加18名
12月11日	368回「第3回アジアンチャリティフェスティバル報告」有山京子 参加11名
1月8日	369回「インド職業訓練学校報告」横山浩平 参加16名
2月19日	370回「インドネシア マングローブ植林報告」有山京子、伊藤勝 参加12名
3月12日	371回「タイ・サイクル・エイド報告」小原純子副会長 参加16名

(2) アジア井戸ばたサロン

(代表 澤村和子 顧問 小原純子)

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』(小原純子JAFS副会長 企画実施)がインドネシアで開催された。これを機に1992年アジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動をはじめた。

サロン独自の和紙を中心とした手作り作品、その他工芸品製作などに力を入れ成果を上げている。メンバーと共に活動を続け、作品も多彩となり、本年度も目的達成のために設立された「水がめ基金」から「JAFS里親の会」に例年通りの支援をした。さらに毎年アジアで行われている「アジア国際ネットワークセミナー」(AINS)での参加者プレゼント用の手作り作品の製作を続け、今日に至る。また、2018年11月 JAFS主催の「アジアン・チャリティ・フェスティバル」にケーキ・箸袋を作り参加・協力した。

<活動>

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
- ・季節のカード・色紙・メモ帳・香袋など。

毎週火曜日 午後1時～3時

(3) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 船戸康夫)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることが目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は農村開発活動とともに井戸1基の建設を支援した。

- | | | |
|----------|------------------|---|
| 4月28日 | 総会 | 場所:JAFS 会議室 |
| 4月30日 | 春の JAFS チャリティバザー | 出展
場所:大東市 |
| 6月29日 | 第26回スリランカ講座 | 於:ラッキーオーガニック
『スリランカ料理を楽しむ会
元気になるスパイスで暑い夏を乗り切ろう!』
講師:ラックスマン フェルナンド氏 |
| 8月25,26日 | 泉大津イベント | 模擬店参加 |
| 9月1,17日 | | 場所:泉大津フェニックス |
| 10月20日 | 秋の JAFS チャリティバザー | 出展
場所:大東市 |
| 10月28日 | 第44回四條畷市民の集い | 出展
場所:JAFS 会議室 |
| 11月24日 | アジアンチャリティフェスティバル | 出展
場所:立正校成会 |
| 2月2,3日 | ワンワールドフェスティバル | 出展
場所:扇町公園 |
| 2月23日 | 第27回スリランカ講座 | 場所:JAFS 会議室
『私が学んだスリランカと日本』
ゲスト:バーギヤ ウデシカ 樋口氏 |
| 3月16日 | スリランカ料理教室 | 場所:クレオ大阪西
ゲスト:バーギヤ ウデシカ 樋口氏 |

(4) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子) 支援会メンバー:11名

2018年度も日印友好学園コスモニケタンの運営を引き続き支援した。有償の English Medium(全英語による教育)による幼稚園(今後、小学校にまで拡充)も開校2年目を迎えた。生徒の学力ギャップを緩和するために、成績が悪化している生徒や転入生のためのサマーコースを数学、国語、理科など開始し、成績ギャップをうめるだけでなく、コスモニケタン学園自体の収入にも繋がっている。

度重なるインドの教育システムの変更や社会環境の変化、周辺の学校との教育の競争もあり、中等学校卒業認定試験(SSLC)の成績は落ちてきている。その中で、女子の成績が安定しているのは、長年の先生方の熱心な指導の成果である。

今後、政府実施の先生への指導の他に、生徒の成績に影響をおよぼす社会環境の変化などを細かく見ながら、どのようにしたら教育が継続され、生徒の成績も安定していくのか、見ていく必要がある。

(5) JAFS ネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩 書記 渡辺治彦/長 克宣)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とし2000年に発足する。

活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

今年度の活動内容は、子供達の環境教育に活用できる教材作成を中心に、ネパール支援のための資金確保に向けた各種バザーへの参加を実施した。

今年度のプロジェクト支援は、老朽化により修理が必要となったノールバラシー郡スリーサンティ小学校のトイレ改修費用の支援を実施。また、継続的支援として里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施しています。次年度は、ネパ橋結成20周年を迎えるにあたり、各種イベントの企画等を実施するなど、魅力ある活動となるよう、検討を進めている。

- | | | |
|--------|------------------------------|---------|
| 4月7日 | 例会・花見 | (8名) |
| 4月14日 | 例会 | (4名) |
| 5月12日 | 例会 | (4名) |
| 6月16日 | 例会 | (5名) |
| 7月14日 | 例会 | (5名) |
| 8月11日 | 例会 | |
| 8月24日 | 枚方祭り準備 | |
| 8月25日 | 枚方祭りチャリティ出展 | |
| 8月26日 | 枚方祭りチャリティ出展 | |
| 9月15日 | 例会 | (5名) |
| 10月15日 | 例会 | (5名) |
| 11月3日 | 東大阪国際交流フェスティバル | チャリティ出展 |
| 11月10日 | 例会 | (9名) |
| 11月23日 | 枚方多文化フェスティバル | チャリティ出展 |
| 11月24日 | JAFS アジアンフェスティバル参加・ネパールダンス出演 | |
| 12月15日 | 例会・忘年会 | (4名) |
| 1月12日 | 例会・新年会 | (8名) |
| 2月17日 | 寝屋川バルーンフェスティバル | チャリティ出展 |
| 2月24日 | 例会 | (5名) |
| 3月9日 | 例会 | (3名) |
| 3月30日 | 花見交流会 | (5名) |

(6) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解すること、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。飲食店出展や料理を通じた文化交流プログラム等を企画し、PAONとしてJAFSの海外プロジェクト支援、特に安全な飲料水の支援を目標に活動している。今までにスリランカ、ラオス、ミャンマー、カンボジア、バンラデシュ、フィリピンへ6基の井戸を贈ることができた。

8月25,26日 泉大津イベント 模擬店参加
9月1,17日 場所: 泉大津フェニックス
2月2,3日 ワンワールドフェスティバル出展
場所: 扇町公園

(7) JAFSオアシス会(中国教育医療支援会)

(代表 青木美千代)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力と連帯”の輪を広げるといふJAFS基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。

シルクロードを通じて日本にもたらされたものを「文化交流」により見出し、日本文化の原点を身近に感じることで、私達の日常に根付いている文化を再認識し、それぞれが培ってきた伝統文化や精神を次の世代にバトンタッチできるよう、アジアの一員として未来に向けた活動を行う。

2018年

8月25,26日 泉大津イベント 模擬店参加
9月1,17日 場所: 泉大津フェニックス
10月1日 例会 場所: ムカーム
12月13日 例会 場所: ムカーム

(8) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2018年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースに本会のインド現地提携団体 HDSI のスタッフ Mr. Apana Ambadas Dhamgaye の就学を支援した。

(9) ネパール子ども夢基金

ネパールの子どもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、ネパールにて8月と12月末実施の子ども環境セミナーを実施の支援を行った。

(10) ネパール地域医療支援会

(担当事務: 小原純子副会長)

ネパールの農村エリアの地域医療向上及び母子保健向上をサポートする支援会。

今年度は、山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動を引き続き実施し、約80名の女子生徒達に配布した。同時にテキスト作りに取り組んでい有る。また支援金のために引き続きブルトップ回収を行っている。

(11) アジア未来塾

アジア未来塾は、“One Asia Community without poverty”を目指し、アジア人がお互いに協力する輪を広げるという理念に基づき、地域研修交流活動“アジアアカデミー”の一環として2010年10月に設立されました。アジア未来塾は、アジアと日本と世界の関わり方を考える「アジア市民の会」であり、在関西のアジア人の仲間との交流を図り、アジア社会への貢献を図ることを目的としています。本年度は、4月22日(日)に開催。参加者は10名。

(12) サイクル・エイド支援会

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業。子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上につながり、環境にやさしい貴重な移動手段として、地域の福祉環境改善のために再生自転車を有効利用している。自転車を通じた国際交流の絆を深める目的を進めていくためにサイクル・エイド支援会を設立。様々なイベントでの広報活動や自転車を輸送するための協力を募っている。

(13) JAFSバーラト会

(代表 巽 正憲)

毎月第3火曜に例会を開催し、インド国歌を歌い、ヒンディー語を勉強しインドの歴史、文化、最近のインドについて学習している。時には、外部講師も招き、インドについての理解を深めている。インド映画やイベントの情報交換も行っている。

例会: 4月18日、5月16日、6月20日、7月18日、
8月19日、9月19日、10月17日、11月21日、
12月19日、1月16日、2月20日、3月20日
12回の例会と映画上映会等で、延べ130人が参加。
活動は4年目に入って、インド旅行も計画中。

(15) JAFS歌声サロン

(代表 有山京子)

ピアニスト有山京子の伴奏をバックに、好きな歌を歌い、日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。2016年度から、活動を開始し、参加費の一部をインド子ども教育支援(インド、ナグプール県のチャイルドアカデミー)、アジアフレンドシップ夢基金へ寄付を行なっています。

例会: 4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、
9月11日、10月2日、11月13日、12月4日、
1月8日、2月26日、3月12日
のべ53名が参加

(16) JAFSワンコインセミナー

(代表 有山京子)

2016年度よりの英会話クラブに続き、2018年より、500円で色々な講座を受けられる「ワンコインセミナー」を開設。英会話は主に初心者向けとなっています。講師は伊藤勝先生で状況に応じて英語を使い分ける方法を教えてください。ワンコインセミナーは沢山の講師の先生をお招きして、広範囲に及ぶセミナーですので、多くの情報を得られるチャンスです。会費の一部はインド子ども教育支援に寄付します。

英会話例会:4月19日、6月21日、11月8日、14日、22日、27日、12月6日、27日、1月7日、22日、29日
2月5日、13日、21日、28日、3月6日、14日、28日
のべ73名が参加

ワンコインセミナー:6月21日、25日、27日、7月4日、18日、25日、8月1日、17日、9月8日、20日、10月13日、18日、11月13日、12月20日、1月17日、23日、2月20日、27日、3月22日、
のべ171名が参加

(17) JAFS旅人(たびんちゅ)

(代表 有山京子)

旅の好きなものが集まり、折々の季節を楽しみながらチャリティ企画で旅をしています。会費の一部はアジアフレンドシップ夢基金に寄付しました。

2018年

7月14日 熊野塾 参加7名
～15日 場所:和歌山県新宮市

7月29日 白馬大池ツアー 参加5名
～30日 場所:長野県 白馬大池

12月1日 美山放水見学ツアー 参加6名
場所:京都府南丹市美山町

12月19日 牡蠣ツアー 参加5名
場所:岡山県日生市

2019年 白馬スキーツアー 参加4名
1月25日 場所:長野県白馬村
～28日

3月1日 カニツアー 参加7名
場所:京都府夕ヶ浦温泉

3月16日 1泊坐禅会 参加13名
～17日 場所:四天王寺天正寺

3月21日 白浜温泉巡りツアー 参加7名
～22日 和歌山県牟婁郡白浜町

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 山竹継男)

事業期間:2018年4月1日～2019年3月31日

事業の内容:残していく自然(京都府南丹市美山町にある「美山楽舎」や新淀川河川敷)を実際に訪れ、市民レベルでの自然環境保全を考えた。

(1) 自然環境保全事業

内容:残していくべき自然(京都府南丹市美山町の「美山楽舎」の活用や新淀川河川敷を実際に訪れ市民レベルでの自然

環境保全を実施した。

- 5月26日 美山紅芍薬観察会
- 6月10日 第15回しじみ獲り(新淀川河川敷)
- 3月24日～27日 第7回美山土と水と緑の自然学校開催

(2) 保有・管理財産活用事業

内容:京都府南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を一般に有料で貸し出し保存すべき歴史的建物(古民家)に触れることによりナショナル・トラスト運動に理解を深めて頂いた。

(4) 農林漁業生産支援事業

内容:農村地域の行事に積極的に参加し、地元住民との交流を図り、農業生産の実態や農業生産支援について考える機会を得た。

- 10月28日 奥庵堂祭りに参加
- 2月3日 美山神谷雪祭り協賛

(2) グリーンベイOSAKA

(代表 萩尾千里)

堺第7-3区共生の森において、以下の通り、「グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)」を開催した。なお「第12回グリーンベイ植樹会」は9月に発生した台風21号の影響で中止となった。

(1) 「グリーンベイ森を育てる会(草刈り会)」

日 時:5月27日(日) 9時30分から13時30分まで
天 気:好天
参加人数:総勢125名

(2) 「第12回グリーンベイ植樹会」

11月25日(日) 9時30分から13時30分までを予定しました。が、台風21号の影響で管理事務所の全損壊などのため、大阪府のみどり推進室が「安全確保がすみますまで、活動を控えていただきたい」との連絡を受け、中止としました。

(3) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表:萩尾千里、大阪グループ代表幹事:橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬されかつ信頼される国(社会)づくり」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的市民の会を目指している。発足は2006年12月

定例会:毎月第一日曜日 午後2:00～5:00

場 所:JAFS 会議室

(都合により日程、場所に変更有)

<年間を通じての基調テーマ>

1. 憲法改正の論議(終戦時GHQによる押しつけ憲法由来する)
2. 外交・防衛関係(対中、対北、対韓、対露)など周辺諸国との摩擦
3. 国内政官界の衰弱と綱紀の弛緩
4. 国内の社会時事問題
5. 会の運営方針
6. その他

<2018 年定例会>

4月29日	第99回	JAFS	参加者 7名
6月10日	第100回	JAFS	参加者 6名
9月2日	第101回	JAFS	参加者 5名
10月28日	第102回	JAFS	参加者 7名
11月18日	第103回	JAFS	参加者 7名

<2019 年定例会>

1月28日	第104回	JAFS	参加者 5名
2月24日	第105回	JAFS	参加者 6名
3月24日	第106回	JAFS	参加者 6名

<当面の運営方向>

これまでの検討経過を踏まえ、改憲論議の機運を盛り上げるためのアクションをとるようにしたい。例えば、新聞への投書、地域選出議員(本人、事務所、党本部など)への嘆願書提出など。また、思いを同じくする他団体との交流なども、引き続き試みていきたい。



日本・インドネシア国交樹立60周年記念セミナー(法人賛助会)



住道バザーに歌のパフォーマンスで参加する子どもたち



JAFS 社員クラブ(漫画家 黒田クロ氏の講演)



アジア・チャリティフェスティバルに協力・参加するマレーシア人留学生たち



地区世話人・活動協力スタッフ研修会の様子



JAFS 高槻のアジアンホームパーティ



河内長野アジア友の会のみなさん



JAFS 京都地区アジアの子どもたちのためのチャリティコンサート



枚方・寝屋川ウォーカーズの参加者



西宮国際交流デーに出展をするJAFS 西宮地区の人たち



JAFS なにわ西地区の大阪市内の名所のチャリティウォーク



JAFS ウェルカムパーティにて会食しているところ

IV-B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（1）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で巡り、自然体験をした。新宮市からの協力を得て、東日本大震災の被災地である名取市から子どもたち10名が参加した。合計77名が自然豊かな新宮市高田地区に集い、本プログラムを実施した。35周年を迎え、25周年記念に埋めたタイムカプセルの掘り起こしを当時の参加者と共に起こした。また、新しいタイムカプセルをリーダー、参加者と共に埋めた。

開催趣旨

大自然の中での生活体験を通じ、自然の成り立ちや不思議を知り、人間を含む生態系の営みや自然を大切にすることを学び、次代を担う世代として、より豊かな心を持たせることを目的とする。

行事名 第35回土と水と緑の学校
実施期間 2018年8月6日(月)～11日(土)の5泊6日
(本部開設期間8月4日(土)～8月12日(日))

実施場所 和歌山県新宮市 高田地区一帯
および、那智勝浦宇久井
本部:高田公民館

主催者名 【旅行企画実施】
関西教育旅行
【プログラム提供】
新宮市教育委員会 和歌山県新宮市
公益社団法人 アジア協会アジア友の会(JAFS)
一般財団法人 新熊野体験研修協会

協力者名 近畿労働金庫、大阪帝塚山ライオンズクラブ

後援者名 大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
和歌山県教育委員会、新宮市教育委員会
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 産経新聞厚生文化事業団
社会福祉法人 読売光と愛の事業団大阪支部
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団

参加者数 (小学3年～中学3年) 77名
(大阪側42名・新宮側48名(名取市より参加はありません))
ジュニアリーダー数(高校生) 10名
リーダー数(大学生・社会人) 9名
本部ボランティア・関係者・スタッフ数 55名
講師数 8名

土の日

午前中は、栄養度の高い腐葉土を山から掘り、その中に住む、昆虫やその他の微生物の観察。色やにおいなど様々な特面から土について学習した。午後からは、班ごとでクラフトや、自然体験ゲーム、川遊び、成果発表の準備などをおこなった。

水の日

午前中は、水中にすむ生物の観察から水の大切さを学んだ。何十種類にもおよぶ川の生き物の採集し、それらの特性、特徴を観察した。午後からは、カヌー体験で川の流れを知り、川で泳ぐ体験により全身で水を感じた。

緑の日

午前中は、緑の働きや人々とのかわりを、あずま屋から一ノ滝まで歩くことを通して学んだ。ハイキングの中で、草木や熊野地方特有の植物に触れ、緑の役割を学んだ。午後からは、テントでの宿泊を体験し、かまどでの火起こしやエコ自炊やドラム缶風呂を体験した。

海の日

午前中は、海に生きる多様な生物を採集し、生態を観察した。海での磯観察では多種多様な生物に触れた。午後からは、船でホエール・ウォッチングに出かけ、クジラの生態を学び、地域での取り組みについて考えた。

心の日

スライド写真を通じて、世界の自然やアジアの国々の生活の様子に思いをはせた。同世代の子どもたちの生活や、アジアにおける水不足の現状、食糧事情、環境などを学んだ。また、35周年として、自然の中で心を開いた子ども達の内面に目を向ける『ばけもの図鑑』を作成した。

（2）美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通じ、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

開催趣旨

「農村と都市の交流」をテーマに、単なる自然体験ではなく、農村に暮らす人々との交流を通して身近にある自然と生活のつながりなどを学ぶことで、自然を大切にすることと仲間を思いやる気持ちを育てる。

行事名 第7回 美山「土と水と緑の自然学校」
実施期間 2019年3月24日(日)～27日(水)
実施場所 京都府南丹市美山町大内地区
主催者名 【旅行企画実施】
関西旅行教育株式会社
【プログラム提供】
公益社団法人アジア協会アジア友の会(JAFS)
関西ナショナルトラスト協会
大内地区農村都市交流実行委員

参加者数 20名
(小学3年生～中学3年生、ジュニアリーダー数(高校生)、リーダー数(大学生・社会人)を含む)

本部ボランティア・関係者・スタッフ数...約16名

内容 水路探検、キャンプファイア、クラフト、餅つき、地元の話など。

地域に根ざしたプログラムづくりとして、美山に定着してきた本プログラム。参加者も一定化しており、夏の土と水と緑の学校で出会

った友達と再会したい子どもたちが、大阪、京都、新宮から集まり、参加している。その中で地元の素材がブレンドされ、プログラムの中で活きた形となった。

春休み中にもかかわらず、参加者が少なく、地域の素材を活かしたプログラムを一つの材料として、より多くの子どもや両親に PR できるような広報づくりをしていきたい。

(独立行政法人国立青少年教育振興機構
平成 30 年度子ども夢基金助成)

(3) 各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFS の海外ネットワーク(インド、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている(大阪、吹田、寝屋川・枚方)。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

(代表:永井大介)

活動内容

年間を通して京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環育活動及び海外支援活動

活動報告

8月6日～11日 第35回土と水と緑の学校に参加(新宮市高田)

3月24日～27日 第6回美山「土と水と緑の自然学校」に参加

その他、美山町にて適宜農業体験などを実施

◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー:杉原貴、雨森清忠、服部博、濱野和也、早川直彦、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を行っている。2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っている。2017年も引き続き、月一回の川清掃、夏のキャンプ、年数回吹田内でキャンプを行った。

<糸田川清掃、環境保全活動>

毎月一回、基本的に第一土曜日に30分ほど実施。

参加人数は平均6～8人。

実施日: 4月7日、5月12日、6月2日、7月7日、8月4日、
10月13日、11月3日、12月1日、1月13日、
2月3日、3月3日

<無人島キャンプ>

7月14日～7月16日(友が島)

◆国際グリーンスカウト寝屋川・枚方◆

2006年11月に結成。今年度も引き続き第2エリア植林活動「北河内緑とふれあう会」に参加。行動を同じくした。



第35回土と水と緑の学校に参加した子どもたち



土と水と緑の学校「海の日」の様子



第7回美山土と水と緑の学校に参加した子どもたち



JAFS アジア市民大学開学記念講演会の様子



大泉自然観察会の様子



第4回チャリティライブ生駒にてコーラスグループのパフォーマンス



富田林地区の BBQ 会の様子



中山寺子どもフェスティバル(子どもの遊びなどを出展)



ネパールへの架け橋(枚方祭りへのチャリティ出展)



JAFS 吹田・池田地区(森を歩こう)の様子



スリランカ講座の様子

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第7回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより萩尾会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数223名の内、出席社員数145名（内書面評決者及び評決委任者98名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時：2018年6月9日（土） 午後2時～3時30分

会 場：ドーンセンター 4階 第3大会議室

議 案：I. 決議事項

第1号議案『役員選任』の件

第2号議案『2017年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、
同附属明細書及び財産目録承認』の件』の件

II. 報告事項

- ① 2017年度事業報告並びに同附属明細書について
- ② 2018年度事業計画書について
- ③ 2018年度収支予算書について

上記の決議事項に関して、異議なく承認された。

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	萩尾 千里	大阪国際フォーラム 会長
理 事 長	田中 久雄	元（株）かんぼう 社長
副 会 長	小原 純子	（一財）大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
	山田 英男	大阪カンボジア王国名誉領事、山田不動産（株）代表取締役
	湯川 剛	（株）OSG コーポレーション 代表取締役会長・CEO
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	富松 英二	元 三菱電機（株）通信機製作所 開発管理担当部長
常任理事	池田 直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
	井上 勇一	日本キリスト教団 洛南教会 牧師
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	沖田 文明	（特活）関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
	齋藤 公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン編集長
	櫻井 紘哉	元（株）三和銀行 管財部長 （学）芦屋学園理事
	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 副理事長 元駐カンボジア特命全権大使
	西田 貞之	（有）西田興産 代表取締役 元大阪府職員

	新田 香織	近畿大学総合社会学部 教授
	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	法花 敏郎	元 (株) 朝日ビルディング 社長
	森本 榮三	森本グリーンサービス 相談役
	吉田 俊朗	元 ユニチカ (株) 監査役
理事	熱田 親憲	NPO 法人ネパールロードを支える会 理事長
	桑村 壽子	天王寺英数学院 理事長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	高橋 泰彦	元 イオングループ労働組合連合会 会長
	土屋 菊男	元 関西学院高等部 教諭
	寺西 浩章	(宗) 家原寺 住職
	橋口 高明	(株) エイメックストレイディング 代表取締役
	服部 貢	(株) 服部建設事務所 代表取締役 相談役
	福澤 邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 副中央執行委員長
	古谷 裕子	北港情報サービス(株) 代表取締役
	森本 匡昭	森本税理士事務所 所長
	米田 明正	(株) グローアップ 代表取締役
監 事	出口 貴之	(株) 宝屋 代表取締役
	毛利 吉男	(株) カステロ 代表取締役
	山下 泰之	東邦金属(株)常勤監査役

(2019年3月31日現在)

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2018年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

V-C. 理事会

(議長:萩尾千里会長)

理事会: 5月、6月、9月、12月、3月 (計5回開催)

原則として第4火曜日に実施。

V-D. 常置委員会

I. 公益目的事業 I 開発支援事業

2018年度は、開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、プロジェクト評価、報告などを実施。2019年度新規事業の審議を実施。

委員長:大倉達也理事(～12月)

委員長:米田明正理事(2月～)

副委員長:米田明正理事(～2月)

副委員長:福澤邦治理事(2月～)

<事業内容>

1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業
5. サイクル・エイド事業

開催日:5月、7月、9月、11月、2月、3月 計6回実施。

II. 公益目的事業 II 国際交流事業

国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。各事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を実施。

委員長:西田貞之理事

委員:坂口久代理事、藤原正昭理事

<事業内容>

1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業
3. アジア・フレンドシップ夢基金

開催日:7月8月、9月、2月

10月5～9日には、第28回アジア国際ネットワークセミナーをマレーシア・ペナンで実施した。

III. 公益目的事業 III 生活支援事業

2018年度は、以下1～3の支援事業決定事項や進捗状況について協議。また、年度途中でマレーシアにおけるロヒンギャ難民支援依頼、インドネシアのロンボク地震が発生し、その対応に關しても協議した。

委員長:藤原正昭理事

副委員長:橋口高明理事

<事業内容>

1. ネパール地震災害復興支援事業
2. 東日本大震災支援事業
3. 熊本地震被災者支援
4. マレーシア ロヒンギャ難民支援
5. インドネシア ロンボク地震支援

開催日 4月、8月(メール稟議)、11月、2月(メール稟議)(メール稟議を含め 計4回実施)

IV. 公益目的事業 IV 国際理解・啓発活動事業

事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。

総括委員長:村上公彦事務局長

<事業内容>

1. 会員拡大・地域活動推進委員会(齋藤公代委員長)
地区世話人とともに活動していく仲間(会員)の輪を広げる活動を推進した。
会員拡大地域活動推進委員会:5月、6月、12月、2月
活動協力スタッフ会議:4月、5月、6月、2月
地区担当スタッフ会議:11月、12月、1月
2. 広報企画委員会(法花敏郎委員長)
アジアネット編集とHPリニューアルを中心に開催。
開催月:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2019年1月、2月、3月
3. 事業委員会(沖田文明委員長)
住道バザー、土と水と緑の学校、熊野塾、アジア・チャリティ・フェスティバルを開催
委員会:4月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、1月、2月
4. 国際文化交流委員会(新田香織委員長)
アジアを身近に感じ理解し、活動を応援する人々の育成を目指し支援の輪を広げるを中心に活動。
開催月:6月、9月、12月、3月
5. 全国ネットワーク委員会(井上勇一委員長)
全国の活動拠点作りのための人材発掘に努力した。
開催月:7月、9月、12月、3月

V. 法人管理部門

委員長:櫻井紘哉理事

1. 総務兼法人賛助会担当 櫻井紘哉理事
 2. 財務担当 上野孝一理事
 3. 法務担当 池田直樹理事
 4. 庶務担当委員 吉田俊朗理事
 5. ガバナンス委員 富松英二常務理事
 6. 業務統括・事務局 村上公彦専務理事
- 開催月:原則として8月を除き毎月開催。計11回。

※JAFS40周年記念委員会 全体委員長:小原純子

2019年10月の創立40周年に向け 式典委員会、募金委員会、記念誌委員会、ビジョン委員会、会員サービス委員会、作文コンテスト委員会、記念イベント委員会の7つの委員会が結成された。

V-E. 立入検査

2度目の立入検査が実施された。提出書類の修正等はなく、若干の指摘事項については、随時改善していく。

以上

【事業報告の付属明細書】

2018 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上